

研修事業発表資料

さくら保育園について

京都府北部 舞鶴市 人口8万人
日本海に面し、自然豊かな町
海上自衛隊・海上保安庁の拠点が有り、軍港・城下町として栄える。引き上げの港としても知られている
近年は海軍倉庫を改修し、赤煉瓦の町として観光に來られる。

社会福祉法人倉梯福祉会さくら保育園は昭和28年開園
開園65年を迎える
0歳児～5歳児 110名定員
職員32名 ※パート含む
同一敷地内に学校法人立の幼稚園があり、160人を保育している ※共有の園庭



保育の見直しとその取り組み

京都府舞鶴市
社会福祉法人倉梯福祉会
さくら保育園 園長 森田達郎

転換のきっかけ

- ①平成28年2月 園長が第三者評価の評価者として訪れた保育園に衝撃を受ける
(子ども主体の保育の実践園)
- ②平成27年から舞鶴市の乳幼児教育ビジョンに参加していたが、子ども主体の保育についての認識もなく良きもあまり分かっていなかった
しかし、他園の公開保育やドキュメンテーション研修に参加していく中で自園の「保育」や「あそび」について検討する

行事を含めた保育の見直し

- あそびについて
行事の練習や、設定、製作の時間＝保育
上記の保育の間の休み時間＝あそび(自由あそび)
- 見直し
保育＝あそびの中の成長・発達
朝の集まりや体操によって、あそびが途切れないように工夫した

行事とは？

参観日 運動会 造形参観 作品展 生活発表会 ETC

平成28年度から保育方針を転換

- 行事中心の一斉保育から、日々の保育の遊びを中心に子ども主体の保育に切り替える

平成28年3月から、保育室、生活環境、子どもの動線、おもちゃの転換を進める。
乳児は、いかに愛着を大切にしてお大人を信頼できるかという保育を目指す

おもちゃの専門家に相談し、年齢の発達に応じた
おもちゃや棚、ままごとコーナーなど、日々の保育に必要なものを揃える

全てがスムーズに転換できたわけではない

- 今まで保育していた保育士にとって、保育の見直し＝今までの保育を否定されているように感じてしまう
主体的な保育＝自由保育＝放任保育＝じっとできない一年生
設定保育・一斉保育は間違った保育なのか？
保育士と保護者に理解してもらうのは難しい
丁寧な保育には保育士の人数が必要である
副園長・保育士と相談しながら、今後の保育について考え続けてきました

そんな中、舞鶴市では乳幼児教育ビジョンとして
公私立・保育園・幼稚園の垣根無く、舞鶴に住む
全ての子どものために乳幼児関係団体が合同の研修を
実施していただくため、職員一同で参加することになりました。

文部科学省調査研究委託「幼児教育の推進体制構築事業」
舞鶴市 平成29年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

事業全体
○乳幼児教育ビジョン推進事業 全体会・報告会
○乳幼児教育フォーラム
・近隣市町村、委託研究自治体へ広報

乳幼児教育ビジョンの周知
○講演会、説明会等の開催
○ビジョン運用の発行
・家庭向けにビジョンの内容をわかりやすく発信

乳幼児教育の質の向上研修 対象：保育所・幼稚園、小学校
全体講師：北野幸子准教授(神戸大学大学院)

子ども主体とした保育
講師：北野幸子准教授 (神戸大学大学院)
◇公開・カンファレンス
◇講義・グループワーク
◇公明・カンファレンス
◇グループワーク(ドキュメンテーションの役割 他)
◇グループワーク(ドキュメンテーションの役割をともに 他)
公開保育の記録をもとに(他)

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会
講師：溝邊和成教授 (兵庫教育大学大学院)
○カリキュラム策定会議
・保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員代表
・0-15歳を切れ目なくつなぐ
・乳幼児教育の推進カリキュラム
・まいつづる015(仮)の検討
○乳幼小中連携研修
・事例の取集・研究
・全園・全校対象

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会
文部科学省の調査研究委託事業の推進について、研究推進体制の検討、研究成果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置しているもの

乳幼児教育の質向上研修
子どもを主体とした保育 (概要)

- (1)公開保育、グループワーク、カンファレンス
◎園の公開保育と事後のグループワークにおいて実践者と参観者が保育を語り、カンファレンスを通じて学び合う。
◎公開保育のテーマや視点にもとづいて、参観者が子どもの姿を記録し、グループワークで活用する。
- (2)ドキュメンテーション研修、グループワーク
◎各園で書いているドキュメンテーションを元にワークシートを活用して、保育や遊びの中の気づき、学び、保育者の関わりなどをグループで語り合う。
◎対象を初めてドキュメンテーションを書くフレッシュや保育のリーダーとなる保育者に分けて実施する。

(1) 公開保育

【目的】

- ◎乳幼児教育ビジョンの基本理念「主体性を育む乳幼児教育」の推進に向け、研修等を通じて、園・校種、公私を越えて共に学び合う。
- ◎公開保育を通じて、実践者も参加者も互いに保育を振り返り、学び合う機会とし、質の高い乳幼児教育を目指す。



(3) 経過報告

研修	日時	内容
ドキュメンテーション研修 (フレッシュ向け)	平成29年6月23日(金)	グループワーク・事例をもとにドキュメンテーション指導(ドキュメンテーションを見て助言)
ドキュメンテーション研修 (保育リーダー向け)	平成29年7月24日(月)	グループワーク・ワークシートをもとに事例を検討する 講義:「ドキュメンテーションの中の保育を幼児期の終わりまでに習ってほしい10の姿をとらえる」
公開保育 (八重保育園)	12日(火)	民間保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修 (各園から持ち寄る)	平成29年10月11日(水)	グループワーク・ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育 (永福保育園)	12日(木)	公開保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修 (各園から持ち寄る)	平成29年11月8日(水)	グループワーク・ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育 (中興幼稚園)	日(木)	民間保育・グループワーク・カンファレンス
公開保育 (うみへのもり保育所)	日(木)	公開保育・グループワーク・カンファレンス

結果 ドキュメンテーションの作り方に変化

- ◎以前の作り方
ドキュメンテーションを作るためにすることを保育士が決める
シャボン玉あそび・小麦粉粘土・遠足 ETC
保護者が見るため、ひとつのドキュメンテーションに全員の顔が入っている
子どもたちはカメラ目線

今の作り方

- 子どもたちの興味のあること、気づきを焦点にカメラは子ども目線に気をつけて、スナップにならないように ①きっかけ ②ねらい ③考察を入れる

隣接する幼稚園児と交流

「きっかけ」今年度の作品展は、見に来た保護者にお客になってもらい子どもたちがお店屋さんとして招待する形にした
そこで、6グループで分かれて町探検をし、どの店を訪問するのかもグループごとで決めた



町探検

- ・パン屋
- ・はんこ屋
- ・映画館
- ・宝石店
- ・着物屋
- ・写真館
- ・文房具屋 など

(2) ドキュメンテーション研修

- 【目的】各園で書いているドキュメンテーションをもとに保育を振り返り、保育について検討することで...
- ◎子どもの姿、言葉(事実)から、育ちと学びを見取る。
- ◎保育者のねらい、関わり、環境を考える。
- ◎保育には様々な見方や方法があることを知る。
- ◎年齢発達をとらえる。



園内での取り組み

- ◎クラス報告・各行事の取り組み方について
クラス内で話し合い、乳児の午睡時間を利用して各クラスの代表が集まりリーダー大会議
- ◎各クラス担任が作ったドキュメンテーションをお互いに確認する
- ◎各クラスの子どもの成長・発達について職員会で発表する
- ◎今月のねらいについて反省し 翌月の課題を話す
- ◎今まで保育士主導の見せる作品展・運動会・発表会から子どもたちが考え作っていく行事に変わった

さくら保育園 ひまわりぐみ (3才児)



話し合いの結果

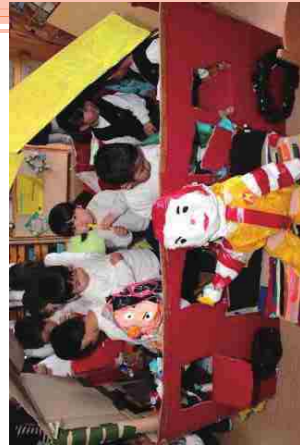
- 写真館と
某ファーストフード店に決定
宝石店にあった古時計は採用





翌週、お店はそのままにし、隣接する幼稚園児にお客として来てもらい交流。

ファーストフード店の店員としてお客を対応



○ Q、保育や行事を見直したことで何が変わったか？

乳児は保育担当制にし、愛着形成を基盤とした個別対応に変わった。食事も一斉に食べず、時間差の食事

幼児は 子ども：表情、動き、言葉などが子どもも発信に変わった

作ってみたい意欲（宇宙・お店さん・楽器など）がある
保育者：子どもの姿をよく見る

子どもの言葉に耳を傾ける

保育者同士で話し合うようになった

保護者：「今日、このお菓子箱持っていて電話作ってくる」「OOちゃんと先生ごっこした」など次の日したいことを考えて夜過ごしている。

・なんでも自分から考えて行動するようになった。

※保護者アンケートより



写真館では

鏡の前でセット・メイクをする人、写真を撮る人と分かれてお屋さんを分けている

事例1

○ お店さんと宇宙に広がった5歳児



プラネタリウムは



家になりました

ファッション

雑誌を作りたい

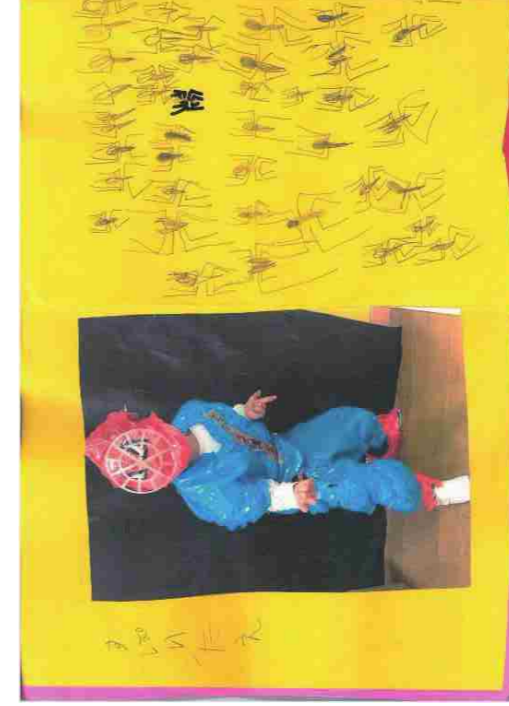
雑誌完成

○ 自分の着たい衣装作り



事例2

○ きっかけは3歳児が、ままごとコーナーで鍋やフライパンを叩いて音を出し、まわりに迷惑をかけていた。しかし、担任は注意するのではなく楽器に興味があるのかと



この事例をドキュメンテーションにしてみました





- そして・・・
- ドラムの子は気持ちを落ち着かせるときに叩いて、落ち着くと次の遊びに移動するようになりました。そしてドラムも、どんどん進化していききました。



- まだまだ保育において未完成な部分がたくさんあると思いますが、この保育に変革するにあたり、副園長と主任を含む保育士たちと協力し進めてきました。この支えがあったからこそ決断ができたと思っています。そして、日夜園内研修を重ねてきました。みんなの日々の努力に感謝し、子どもたちの笑顔に喜びを感じ、これからも進んでいきたいと思えます。



ご静聴ありがとうございました

ニュースレター

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年6月22日
 発行者 舞鶴市健康・子ども部

平成29年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

○皆さんからのご意見を基に策定した「乳幼児教育ビジョン」を広く市民の皆さんにお知らせします。
 ○公・私・園・校種を越えて保育者・教員が共に学び合う「乳幼児教育の質の向上研修」と「保幼小中連携研修」を実施します。さらに、0歳～15歳の学びや育ちを切れ目なくつなぐ、保幼小中の連携カリキュラムの策定にも取り組みます。

なお、舞鶴市は文部科学省の「幼児教育の推進体制構築事業」の委託を受け、この事業を通して、「幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究」を行ってまいります。

舞鶴市 平成29年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

事業全体

- 乳幼児教育ビジョン推進事業 全体会・報告会
- 乳幼児教育フォーラム
- ・近隣市町村、委託研究自治体へ広報

乳幼児教育ビジョンの周知

- 講演会、説明会等の開催
- ビジョン通信の発行
- ・家庭向けにビジョンの内容をわかりやすく発信

乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究

- 行政による乳幼児教育の拠点機能研究
- 乳幼児教育の実践と専門家による研究等 各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

保幼小接続カリキュラム 策定研究

- 講師：溝邊和成教授
 (兵庫教育大学大学院)
- カリキュラム策定会議
- ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員代表
 - ・0～15歳を切れ目なくつなぐ保幼小中連携カリキュラム「まいづる015」(仮)の検討
 - ・事例の収集・研究
- 保幼小中連携研修
- ・全園・全校対象

乳幼児教育の質の向上研修 対象：保育所・幼稚園、小学校

全体講師：北野幸子准教授[神戸大学大学院]

子どもを主体とした保育

- 講師：北野幸子准教授
 (神戸大学大学院)
- ◇公開・カンファレンス
 - ◇講義(ドキュメンテーション 保育リーダーの役割 他)
 - ◇グループワーク(ドキュメンテーション 公開保育の記録をもとに 他)

保幼小連携

- 講師：木下光二教授
 (鳴門教育大学大学院)
- ◇講義、グループワーク
 - ◇公開・カンファレンス
 - ◇小学校教育研究会生活科部 夏季研究会合同研修会 他

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議

文部科学省の調査研究委託事業の実施について、研究推進体制の検討、研究結果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置しているもの

5月25日 保幼小中連携研修を実施しました。

「乳幼児教育と学校教育をつなぐには～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から～」と題し、兵庫教育大学大学院 溝邊 和成 教授にご講演いただきました。研修会には、各保育所、幼稚園、小学校、中学校からたくさんの先生方にご参加いただきました。

10の姿について、事例をもとに具体的にお話していただくことで、以前から知っていたという先生方はもちろんのこと、初めて耳にしたという先生方からも、よく理解できたとの声が多く聞かれました。特に小学校や中学校の先生方からは「幼児期の経験や、体験の大切さがよく理解できた。」「教育の連続性の大切さを感じた。」などの声も聞かれました。

5月25日 第1回保幼小接続カリキュラム策定会議を実施しました。

策定会議では、乳幼児教育ビジョンにおける主体性や自己を肯定するところなどの育てたい力やこころと、小中一貫教育における学び手を育む3つの力をつなぐものとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」があると考えています。2年目となる今年度は、「10の姿」をもとに、保・幼・小・中の育ちと学びをつなげていくため事例の検討を行ってまいります。0歳～15歳までを切れ目なくつなぐため、今年度からは中学校の先生方にも委員に加わっていただきカリキュラムの策定研究を進めてまいります。



年間計画：保育者・教員等対象

※都合により変更となる場合があります。

期 日	研 修 名	内 容	場 所
5月25日(木)	保幼小中連携	講演：「乳幼児教育と学校教育をつなぐには～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から～」	商工観光センター 4F展示交流室
6月23日(金)	子どもを主体とした保育	(フレッシュ向け) グループワーク:ドキュメンテーション	西総合会館 4F第1会議室
6月24日(土)	乳幼児教育ビジョン講演会	講演：「環境を通して主体性を育む」 対談：「これからの乳幼児教育」	商工観光センター 5Fコンベンションホール
7月24日(月)	子どもを主体とした保育	(保育リーダー向け) グループワーク:ドキュメンテーション	西総合会館3F (林業センター) 会議室
8月18日(金)	保幼小連携	連携活動指導案作成	舞鶴市政記念館
9月12日(火)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	八雲保育園
10月11日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	中総合会館 4F401会議室
10月12日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	永福保育園
11月 8日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	未定
11月 9日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	中舞鶴幼稚園
11月13日(月)	保幼小連携	連携活動公開授業・保育研究会	なかすじ保育園、池内幼稚園、中筋小学校のいずれか
12月 7日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	うみべのもり保育所
12月23日(土)	報告会 乳幼児教育フォーラム	報告会(午前) 乳幼児教育フォーラム(午後)	商工観光センター 5Fコンベンションホール
平成30年1月30日(火)	保幼小連携	連携活動報告	未定

年間計画：保幼小接続カリキュラム策定会議※メンバーのみ

※園長会等からご推薦いただいた保育者・教員及び園長・校長等による策定に向けた研究を行います。

期 日	内 容	場 所
5月25日(木)	意見交換 同日、保幼小中連携研修にも参加	商工観光センター 4F展示交流室
7月13日(木)	事例検討(0～5歳児)	西総合会館4F (文化情報センター) 第1会議室
10月26日(木)	事例検討(5歳児と1年生の連携活動)	市役所 6F 大会議室
平成30年1月18日(木)	事例検討(小・中学生)	未定

年間計画：市民向け講演会等

期 日	内 容	場 所	備 考
6月24日(土)	講演会	商工観光センター 5Fコンベンションホール	講演：掘越紀香先生 対談：北野幸子先生、掘越紀香先生
12月23日(土)	乳幼児教育フォーラム(午後)	商工観光センター 5Fコンベンションホール	講演：無藤 隆先生

6月24日(土)乳幼児教育ビジョン講演会を実施しました

参加園/校

保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生方の研修とあわせ、市民の皆さんに、未来を生きる子ども達にこれからどんな力や教育が必要になるのか、子育てをするうえで大切にすべきことを知っていただくため、講演会を開催しました。
市外からの参加も含め、165人の皆さんとともに、学びを深めることができました。

日時:平成29年6月24日(土) 13:30~16:00
場所:舞鶴市商工観光センター5F コンベンションホール
講演:「環境を通して主体性を育む」

国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 総括研究官 掘越 紀香氏
対談:「これからの乳幼児教育～未来を担う子ども達へ今、大切にすべきこと～」
国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 総括研究官 掘越 紀香氏
神戸大学大学院 准教授 北野 幸子氏
話題提供 舞鶴市乳幼児教育コーディネーター

- | | |
|-----------|--------|
| 永福保育園 | 朝来幼稚園 |
| 岡田保育園 | 池内幼稚園 |
| さくら保育園 | 倉梯幼稚園 |
| 相愛保育園 | 中舞鶴幼稚園 |
| タンポポハウス | 三鶴幼稚園 |
| なかつ保育園 | 舞鶴幼稚園 |
| 東山保育園 | 大浦小学校 |
| 八雲保育園 | 城南中学校 |
| やまもも保育園 | |
| ルンビニ保育園 | |
| うみべのもり保育所 | |
| 中保育所 | |
| 西乳児保育所 | |

講演「環境を通して主体性を育む」

子どもが集中・没頭している時が学びの時。その姿を認めたり、皆で共有したり、意味づけたりすることが、保育者の役割。

～掘越先生講演より～

【子どもの「見る」という行為に着目した事例より】
・自分が体験できないことも、友だちの姿を「見る」ことで、体験していることもある。
・やり方をじっと見て観察する姿は、次に主体性を発揮するための「見る」につながる。
・子ども達がどんなことを学んでいるのか、子どもたちの「見る」という行為にも着目することでいろんな学びが見えてくる。

◎幼稚園教育要領・保育所保育指針等の改訂(定)では、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を規定し、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿が明示さ



対談「これからの乳幼児教育～未来を担う子ども達へ今、大切にすべきこと～」

対談では、舞鶴市乳幼児教育コーディネーターより、ドキュメンテーションに書かれてる子どもの育ちや学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で捉えた事例を話題提供として報告しました。今後も、ドキュメンテーションや「10の姿」について学びを深め、保育を可視化し発信していきます。

3歳児 秋～冬

【事例】

子どもの興味・関心

子どもの興味・関心

子どもが興味・関心をもつ様子

掘越先生:以下掘越先生3歳児の2つ(1)の姿の「自立心」につながるのではないかと話があった。10の姿1つだけでなく、複数に関わるものも多い。「ほくも作りたい」とドラムセットを作る場面では、最初それぞれが楽しそうと思ったことをやっていたが、一緒にやったら合奏になった点で、「協同性の芽生え」につながっている。最初は別々だった目的が一緒になって素敵なことができた、それが3歳児らしい「協同性」の芽生えの姿ではないだろうか。

北野先生:以下北野先生3歳児の2つ(1)の姿の「自立心」につながるのではないかと話があった。10の姿1つだけでなく、複数に関わるものも多い。「ほくも作りたい」とドラムセットを作る場面では、最初それぞれが楽しそうと思ったことをやっていたが、一緒にやったら合奏になった点で、「協同性の芽生え」につながっている。最初は別々だった目的が一緒になって素敵なことができた、それが3歳児らしい「協同性」の芽生えの姿ではないだろうか。

自立心

れ、幼児期の教育の学びの成果として小学校と共有されるよう工夫・改善を行うことが目指されている。
【海外の縦断調査研究より】
[アメリカ ベリー就学前計画]
・所得の低い家庭の3・4歳児に対して、質の高い保育と家庭支援等を実施。
・追跡調査により、幼児期に質の高い保育、家庭支援を受けた場合、将来の所得向上、生活保護の受給率の低下につながった。
・認知的能力は小学校の比較的早い時期に差はなくなるが、非認知的能力(動機づけ、粘り強さ、自己調整力)が将来の所得向上などに長期的な効果をもたらした。
[イギリス EPPE研究]
・就学前の教育の質により、11歳時の学力や非認知の自己調整力に差がみられた。質の高い教育を長く受けていた場合、読み書き能力、社会的スキルなどにも肯定的な効果がみられた。特に3・4歳時点で質の良い教育を受けていることがその後の効果に影響していた。

◎「学びの過程」として、遊びを創出し、没頭して遊んだ後に振り返ることが大切。遊びを振り返り、見直しを持ち、期待して次へつなぐことで思考力の芽生えが育まれる。それが小学校以降の習得・活用・探究につながる。
◎子どもが集中・没頭している時が学びの時。うまくいかない時も友だちや保育者の支えで粘り強く取り組んだり、悔しから「今度こそ」と再挑戦したりして集中・没頭する姿が大切。その姿を認めたり、皆で共有したり、意味づけたりすることが、保育者の役割。
◎子どもの「学び」と、「学びに向かう力」の育ちを捉え、支えていくことが大切。
◎自らの教育的意思決定に気付き、援助のタイミング「その時」を見定め判断すること、継続的に読み取って省察する(振り返る)ことが大切。



対談 つづき



10の姿は到達目標ではない。こういう姿に育ってほしいという願いをもって、保育を展開していく専門性が大切。

(北)10の姿は、これからの幼児教育や教育全体で考えた時に、小学校・中学校・家庭とも共有できる言語だということがポイントである。

保育者が保育実践をやりつばなしにしないで、理解したり、実践の振り返りにつなげる方法を助言いただきたい。

(掘)10の姿は到達させなければならない目標ではない。こういう姿に育ってほしいという願いをもって、目の前の子どもに保育を展開していくという専門性が大切。自分自身の保育を振り返るために10の姿を活用してほしい。

また、事例を話し合うことで、自分の見方・捉え方の傾向に気付くことができる。第三者の写真や記録も、他の先生との違いに気付き、自分の保育を振り返る道具となる。自分の見方や、

援助のタイミングを自覚化することから始めてほしい。

(北)10の姿がどんな風に使われていくかという危惧がある。

遊びや生活の中の事例があって、意味づけや位置づけ、説明するとき、伝え合い・話し合いの場面では使えるが、質向上のための使い方を伺いたい。

(掘)文科省・厚労省・内閣府は、10の姿について誤解がないようにしたいと考えていると思う。小学校以上の先生や保護者にも分かりやすい共通言語として、幼児期の意義を発信し、その理解を得ることは必要である。

遊びの中で子ども達が主体的に取り組み学んでいることを正確に捉えて発信するとともに、よりよい保育を展開し、子ども達の育ち・学びを保障することが大切である。

質向上のために、公開保育等で実際に遊んでいる姿を共に見た後、10の姿のこの部分とつながると確認しながら進めるのはどうか。

(北)舞鶴市はみんなで研修して公開し、記録の見直しを小規模でやっている。今後さらに舞鶴市が研修をすすめていく上でのご助言をいただきたい。

(掘)舞鶴市は複数の専門家が関わっており、各先生方の視点からどうしたらよいか提案されている点が強みであり、研修を大事にしているところが良い。

公開保育は実践した先生方の勉強になるだ

けでなく、公開保育に参加した先生方が自分の教育的瞬間はどこだろうと見定めるための良い機会になっている。

他園からの研究部員を置いて、公開保育を作り上げていくプロセスと一緒に経験してもよいだろう。比較的若手で、これから育てたい先生が学ぶ機会になるほか、自園でも実践してみることに繋がる。市内全域に広げる際に研究部員を置くことは一つの方法である。

(北)素晴らしいヒントをいただいたと思う。舞鶴市は乳幼児教育センター設置を目指すという意向があり、アドバイザー制度もあるが、各園でミドルリーダーのような方が園内研修をコーディネートしたり、公開保育の準備をするための勉強として他園の研修や公開保育に参与していき、さらに幼稚園・保育所や認定こども園、公立・私立を越えて小学校も巻き込んでできれば良いと思う。



6月23日(金) 講義・グループワークを実施しました

講義「ドキュメンテーションとは」

「できた」「できない」でなく、「気持ち」「どんな様子」など結果ではなくプロセスを伝えることが大切。～北野先生より～

【プロジェクト型保育】

◎プロジェクト型保育は、生活や遊び、自然体験の中で、子ども自身が、おもしろそう、やってみよう、何でだろうと思ったことについて探究したり、比べたり、調べたりして深めていく保育。あるテーマについて没頭して遊ぶ、遊び込む保育を大事にする。

◎子どもの生活(心の生活)を陶冶する
・知識を与える教育でなく子ども自身が自分で成長していけるような生きる力、応用可能な力をつけていく。
・単に遊ばせているだけでなく、子どもの興味関心(知りたい、やってみよう、試してみたい)を捉えて深めていく。

◎フォーマル(順番通り)ではなく、インフォーマルな環境は、子どもの表現、意思理解、アイデアが現れやすい。

【ドキュメンテーション】

◎ドキュメンテーションは、子どもの姿や言葉や記録し、遊びや生活の中で何を学び、どんな風になっているかを可視化する1つの方法としてある

◎可視化の目的
・保護者や第三者に伝え知ってもらう。
・子どもと共有し、振り返る。
・他のクラスの保育者と共有し、保育の振り返りに活用することができる。

◎単なるエピソード記録から脱却し、専門職による業務記録へ
・与えられた経験、順序のある経験でなく、子ども自身の気持ちが発揮されて導かれた遊びの中で育つ学びを可視化する。
・好奇心、探究心、憧れを見取る。
・保育者自身が子どもの発達を知り、育ってほしい子ども像を書き添えていく。

・「できた」「できない」の結果ではなく、プロセスを伝える。

与えられた経験、順序のある経験でなく、子ども自身の気持ちが発揮されて導かれた遊びの中で育つ学びを可視化する。～北野先生より～

参加園

- | | |
|---------|-----------|
| 永福保育園 | うみべのもり保育所 |
| 岡田保育園 | 中保育所 |
| 平保保育園 | 西乳児保育所 |
| タンポポハウス | |
| 東山保育園 | 朝来幼稚園 |
| 八雲保育園 | 池内幼稚園 |
| やまもも保育園 | 舞鶴聖母幼稚園 |
| ルンビニ保育園 | 三鶴幼稚園 |
| | 舞鶴幼稚園 |

◎どんな写真で可視化するか
・子どもが対象と関わる姿。手元のアップ。
・子どもの視線の先にあるもの。
・人と関わる場面(数人で話し合う、教え合う、工夫し合う場面)
◎専門的な実践記録は、議論、評価、専門性の向上が可能。



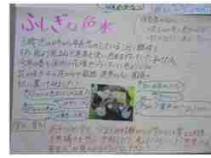
グループワーク「フレッシュ向け」

「フレッシュ向け」として実施したドキュメンテーション研修には、経験年数だけではなく、ドキュメンテーションを書いたことがない、これから書いてみたい、という先生方にもご参加いただきました。

8つのグループ(3人~4人)にわかれて行ったグループワークでは、事例の記録と写真を基に、実際にドキュメンテーションを作成していただきました。先生方からは、「実際に書いてみて、とても難しかったがグループの方と考えたり、まとめることは楽しかった。」「子どもの心が動いた瞬間を見逃さず捉えていきたい」「声やつぶやきをしっかりと聞きたい」など、前向きな意見をたくさんいただきました。

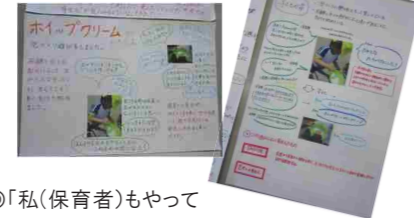
ドキュメンテーションの作成は、今回初めての試みでしたが、この研修をきっかけに、園内でも取り組んでみたいという声も聞かれ、学びの多い研修会となりました。

〈事例1. 色水づくり〉



- ◎「花びらや容器、道具を置いてみた」→「子どもの興味に応じて置いていた」と書くことよい。
- ◎子ども同士をつなぐ、子ども同士の共有、感情の共有を広げる。
- ◎予測との違いは発見であり、それも書くことよい。発見は学びの芽生え。

〈事例2. 泡づくり〉



- ◎「私(保育者)もやってみた」「作ってみた」は人的環境。
- ◎子どもが経験的に気付いたことを保育者が受容、理解し、認め、発信しつなげている。それが教育的意図。

活動は手段であり、子どもの育ちが大事。育ちにつながる活動に目を向ける。
～北野先生より～



※小学校・中学校の先生には、5領域は解りにくい、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で表すと、育ちや学びを説明しやすい。
※業務の記録は繰り返すことで書けるようになる。自分の保育に自信を持って書く。
※「タイトル」も工夫して、子どもの気持ちを表現するものだとよい。

乳幼児教育の質の向上研修には、ご多用にもかかわらず、毎回たくさんの先生方にご参加いただき、感謝しております。未定となっていました9月12日・10月12日に、公開保育を実施していただく園が決定しましたので、お知らせします。

乳幼児教育の質の向上研修 年間計画：保育者・教員等対象

※都合により変更となる場合があります。

研修期間	研修名	内容	場所
5月25日(木)	保幼小中連携研修	保幼小中の連携、接続について 講演：溝邊和成先生	商工観光センター 4F展示交流室
6月23日(金)	子どもを主体とした保育	(フレッシュ向け) グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館 4F第1会議室
6月24日(土)	乳幼児教育ビジョン講演会	講演：掘越紀香先生 対談：北野先生、掘越先生	商工観光センター 5Fコンベンションホール
7月24日(月)	子どもを主体とした保育	(保育リーダー向け) グループワーク：ドキュメンテーション	西総合会館3F (林業センター) 会議室
8月18日(金)	保幼小連携	連携活動指導案作成	舞鶴市政記念館
9月12日(火)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	八雲保育園
10月11日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	中総合会館4F 401会議室
10月12日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	永福保育園
11月8日(水)	子どもを主体とした保育	ドキュメンテーション研修	未定
11月9日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	中舞鶴幼稚園
11月13日(月)	保幼小連携	連携活動公開授業・保育研究会	なかすじ保育園、 池内幼稚園、 中筋小学校のいずれか
12月7日(木)	子どもを主体とした保育	公開保育・グループワーク	うみべのもり保育所
12月23日(土)	報告会 乳幼児教育フォーラム	報告会(午前) 乳幼児教育フォーラム(午後) 講演：無藤 隆先生	商工観光センター 5Fコンベンションホール
1月30日(火)	保幼小連携	連携活動報告	未定

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年11月10日
発行者 舞鶴市健康・子ども部

参加園

- | | |
|-----------|--------|
| 永福保育園 | 朝日幼稚園 |
| 岡田保育園 | 朝来幼稚園 |
| さくら保育園 | 池内幼稚園 |
| 相愛保育園 | シオン幼稚園 |
| タンポポハウス | 橋幼稚園 |
| なかすじ保育園 | 中舞鶴幼稚園 |
| 東山保育園 | 三鶴幼稚園 |
| 八雲保育園 | 舞鶴幼稚園 |
| やまもも保育園 | |
| ルンビニ保育園 | ※50音順 |
| うみべのもり保育所 | |
| 中保育所 | |
| 西乳児保育所 | |

7月24日(月) ドキュメンテーション研修

講義・グループワーク(リーダー向け)を実施しました。

神戸大学大学院 准教授 北野 幸子先生によるリーダー向けのドキュメンテーション研修では、園の保育のリーダーである先生や、これから更にドキュメンテーションを学びたいという先生など、とてもたくさんの方々に参加していただきました。

講義では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(以下:「10の姿」)について、詳しくお話を伺うことで、「10の姿」とは子どもを見る時の視点であることや、学びや育ちを第三者に伝えやすくするための道具であることを具体的に学ぶことができました。

研修に参加した皆さんから、前向きな意見や感想が多数聞かれ、学びの多い研修会となりました。

～参加者からの意見・感想を一部ご紹介します～

- ・「10の姿」について、到達目標ではなく、子どもをより丁寧にみるための視点、理解を深めるための視点という話を聞きよかったです。
- ・子どもに育ってほしい視点を持って、日々の子どもの姿をとらえることの大切さを学ばせていただいた。
- ・乳児の中にも育つであろう「10の姿」を見通していくことも大切だと思った。
- ・幼児期から学習的なことを進めるよりも、人として根本的に大切な思いやりだったり、人との関わりを体験、経験を通して身につけることが大切だと改めて感じた。
- ・遊びや生活を通して、大切に保育をしていきたいと思った。



講義『子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」でとらえ、可視化、発信するには』

「10の姿」は子どもを見る時の視点であり、遊びの中の学びや育ちを伝えやすくするための説明言語である。

～北野先生 講義より～



【幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿について】

◎「10の姿」とは、新しいものではなく、今までの保育所保育指針や幼稚園教育要領の5領域にあったものを小学校にも伝わるように具体的にしたもの。

◎「10の姿」を使い、遊びや生活の中での育ちや学びを可視化することで、小学校の先生や保護者など実践を見ていない人にも伝わりやすくなる。

【10の姿の捉え方】

◎「10の姿」は、5歳までにすべてが育っていないといけなくても、また、0～2歳に見えなくてもいけないものでもない。

◎0歳児の砂遊びでは、自然に興味を持つ

て関わるのが「豊かな感性と表現」につながっていく育ちであり、この経験の積み重ねが4、5歳にどうつながっていくのか、という思いで見えていくことが大切。

◎乳児保育で大切にしたい色・音・形・動き・触覚などは、「豊かな感性」「数量・図形」「言葉」「思考力」につながるけれど、今は見られなくてもよい。

◎「10の姿」は早く見れば良いものではなく、見られないからいけないものでもない。子どもをより丁寧に見ていく(洞察していく)視点である。

◎「10の姿」によりチェックするのではなく、保育の遊びの検証や遊びの現実をより洞察するために活用する。

◎「〇〇してた」で終わるのでなく、「これが〇〇の育ちにつながる」という視点を持って子どもを理解することが大切である。

【可視化・発信】

◎ドキュメンテーションのタイトルは、活動

ではなく、気持ち・育ち・学びをタイトルにするとよい。

◎遊びは育ちにつながる単なる手段。子どもは遊ぶことが目的でよいが、保育者は遊びが目的ではなく、こんな気付き・育ちがあつてほしいという願いを持つことが大切である。

◎「10の姿」はあくまでも道具。子どもを見る時の視点であり、遊びの中の学びや育ちを伝えやすくするための説明言語である。



「〇〇してたな」で終わるのでなく、「これが〇〇の育ちにつながる」という視点を持って子どもを理解することが大切。

～北野先生 講義より～

グループワーク(内容)

～事例の中の子ども達の育ちや学びを「10の姿」で捉える～

11グループ(1グループ4人～5人)に分かれて行ったグループワークでは、はじめに、事例のドキュメンテーションを基にワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取りました。その後、北野先生より「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について講義を受け、もう一度、グループで学びや育ちが「10の姿」のどこにつながっていくのかを検討していただきました。講義後にさらに協議することで、「10の姿」への理解も深まり、それぞれのグループで活発な意見交換が行われました。

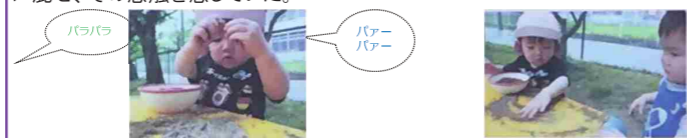
グループワークの感想では、「自分の気付かなかった意見が聞けることで、違った視点で考えられる良い機会」「グループワークの大切さを改めて感じた」「園内でもグループワークなどを積極的にしていきたい」という声も多数聞かれました。事例を基に保育について語り合うことは、自分自身の保育を振り返る機会にもなります。このようなグループワークを園内研修などでぜひ取り入れてみてください。

[グループワークの進め方]

- ①ワークシートの視点にそって事例を読み取る
 - (1)きっかけ(子どもの興味・関心から)
 - (2)子どもの姿、思い
 - (3)保育者の関わり、意図、ねらい
 - (4)環境(意図的な環境設定)
 - (5)学び、育ち
 - (6)あなたが保育を展開するとしたら…どんな環境を準備するか?どんな言葉をかけるか?
- ②①についてグループ内で検討する
- ③事例の中の学び、育ちは「10の姿」のどこにつながるのかを検討する
- ④グループワーク終了後、「10の姿」について検討したことを各グループごとに発表する

【0歳児事例】 A1歳6カ月黒シャツ B1歳6カ月青シャツ

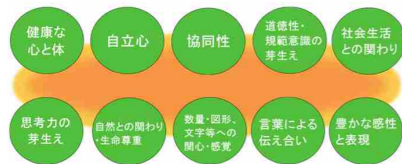
Aくんが、砂を入れた容器を持ってテーブルのところにやってきた。容器から砂を入れたり出したりを繰り返した後、おでこの高さから指先をこするようにして少しずつ砂を落とす始める。少しずつ砂を落とすために、指先に細心の注意をはらって調整している。保育者も一緒に砂を落としてみた。テーブルの上が砂でいっぱいになると手を広げて、手のひら全体で砂をなでるように混ぜ、その感触を感じていた。



[グループ発表より]

- ・砂遊びなどの経験は【健康な心と体】の育ちにつながる。
- ・友だちの真似をして遊ぶ姿(1歳なりの真似っこあそび)は【協同性】の育ちにつながる。
- ・「パラパラ」と言う保育士の言葉を受けて真似していることから、保育士の言葉から学んでいる姿が見られる。【言葉による伝え合い】の育ちにつながる。

これらの事例に挙げた10の姿は、0歳や3歳に今現在この力が育っているというのではなく、この経験の積み重ねが、後に「10の姿」へとつながっていく、という捉え方をしています。また、1つの遊びの中に「10の姿」は1つではなく、色々な育ちにつながる姿があるということが事例を読み解くことで見えてきます。



引用：中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会 幼児教育部会(第10回)配付資料(H28.10.31)

【3歳児事例】

赤土の山のくぼみに流し込んだ水で遊び始めた。そのうちに中に入り手や足で感触を確かめている。また、水の流れに興味を持った子ども達が、川をつくったり、水の中で足を速く動かして流れを変えたりして楽しんでいた。



[グループ発表より]

- ・水が流れていっぱいになることに気づいていることから【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】の育ちにつながる。
- ・「ぼくも一緒にあげると」という言葉や、一緒に川を作る姿から【協同性】の育ちにつながる。

第2回舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議 7月13日

第2回の策定会議では、グループに分かれ保育所・幼稚園から収集した0歳～5歳までの事例を基に、子どもの学びや育ちを「10の姿」で捉えるための協議を行いました。協議後の意見交換では、「同じ遊びの中にも、その年齢ごとの学びがあり、それを「10の姿」でとらえていくことで、その学びが繋がっていることがわかる」「様々な経験の積み重ねが学びにつながる」と、「10の姿」は遊びの中の学びや育ちを伝え、つなげていくツールであることを共有しました。

第3回の策定会議は、保幼小連携活動から事例を収集し、カリキュラムの策定に向け、事例研究等を行っていきます。



8月18日 保幼小連携研修を実施しました

参加園/校

永福保育園	朝来幼稚園	朝来小学校	福井小学校
岡田保育園	池内幼稚園	余内小学校	三笠小学校
さくら保育園	倉梯幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	中舞鶴幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
平保育園	舞鶴聖母幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
タンポポハウス	三鶴幼稚園	倉梯小学校	与保呂小学校
なかつじ保育園	舞鶴幼稚園	倉梯第二小学校	
東山保育園		志楽小学校	(50音順)
やまもも保育園		新舞鶴小学校	
ルンビニ保育所		高野小学校	
うみべのもり保育所		中筋小学校	
中保育所		中舞鶴小学校	



日時：平成29年8月18日(月) 9:00～12:00

場所：舞鶴市政記念館 ホール

グループワーク

各協力校・園の年間計画をもとに連携活動指導案を作成する

講義

「連携におけるカリキュラムマネジメント～計画(指導案)及び評価(記録、省察)の重要性～」

講師：鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生

昨年度に引き続き、舞鶴市教育委員会、小学校教科研究会生活科部と合同で保幼小連携研修を実施しました。この研修では、協力校・園の小学校1、2年生担任と保育所・幼稚園の5歳児担任が1年を通じて(3回実施)一緒に学ぶ形で研修を実施しています。(上記図を参照)

第1回目の今回は、各協力校・園ごとに昨年の連携活動の実践や反省を踏まえて、今年の連携活動について活発に議論されました。

グループワーク

グループワークでは、各協力校・園の年間計画に基づき、1(2)年生と5歳児の担任が実際の連携活動の指導案を作成しました。その指導案に基づいてそれぞれが連携活動を実践し、記録、省察することが、今年度の研修となっています。代表して4つの協力校・園から報告していただきました。



【与保呂小学校 さくら保育園】

- ◎昨年の連携活動をたたき台にして計画した。
- ◎さくら保育園では、興味・関心に基づき、子ども主体で活動していることが1年生になった子どもの姿からもわかる。

【明倫小学校 三鶴幼稚園 舞鶴幼稚園】

- ◎ペアで朝顔の種を植えた。園でも朝顔を植える、手紙でやりとりする、学校の朝顔を見に行くなど春から継続して活動している。

<連携活動について>

『たのしい秋 秋見つけ 収穫 物づくり』

- ◎それぞれの園、校で秋見つけをし、収穫したものを持ち寄って物づくりをする。
- ◎みんなが同じテーマで取り組むということを通して、子ども自らが新たな発見をし、自分の言葉で思いを伝え、友達と協力してつくる。
- ◎物づくりをする楽しさを味わい、秋ならではの季節を楽しむ。
- ◎1年生と5歳児が共に活動することで相手を思いやる気持ちを体験する。
- <ねらい>
- ◎1年生：身近な自然にふれ、秋の自然を生活の中に取り入れる。5歳児と関わりを持つ。
- ◎年長児：友達と一緒に活動したり、工夫したりする。
- <活動の流れ>
- ◎事前に散歩し、秋見つけをする。
- ◎持ち寄り、おもちゃ作りをする。
- ◎発表し、つくったものを認め合う。

<連携活動について>

『朝顔の種 数えてみよう』

- ◎事前にそれぞれで種をとり、持ち寄って数える。
- ◎種をどうして数えるか話し合う。
- <ねらい>
- ◎1年生：色、形、種の種類、1つから多くの種がとれることを知り、数え方を工夫する。
- ◎年長児：種が育ってまた種になるという成長や種の数に興味をもつ。
- <活動の流れ>
- ◎導入
- ・前の時間に種をとる。
- ・種の数あてクイズをする。
- ・興味関心によりグループごとに色々な方法で数える。(カップ、画用紙)
- ◎まとめ
- ・種を数え、どの種をどうするかをペアで話し合う。
- ・種とりを通してさらに活動を深めたい。

【木下先生 指導・助言】

- ◎「昨年をたたき台にして」が、連続性がありとても良い、そのための記録である。
- ◎担任が変わっても昨年の記録をもとに連続性を図っていくのが良い。
- ◎今年の担任がアレンジし、子ども主体の保育を受け入れた思いやりの活動が良い。

【木下先生 指導・助言】

- ◎春の朝顔の種まきからペアを作り、連続的に交流できている。
- ◎生活科だが、教科を越えて算数の要素が入っているのが良い。
- ◎キーワードは、数を数えさせるのではなく、数えたくて仕方がないと思える楽しい活動にする。
- ◎種の大きさに興味があれば、大中小と分けてもおもしろい。

グループワーク つづき

担任が代わっても昨年の記録をもとに連続性を図っている。生活科は柔軟性、弾力性が大事。教科を越えて…同じ活動をして、クラスごとに 取り組みが違って良い。 ~木下先生 指導・助言より~

【岡田小学校 岡田保育園】

◎6月末に泥んこあそびをし、一緒にやりたいことをするなど自然の中でダイナミックに遊んだ。

<連携活動について>

『作ろう あそぼう どうしたら動かな』 ◎廃材を利用し、生き物を作る。 <活動の流れ> ◎9月 材料で何ができるか話し合う。 ◎並べたり組み立てたりしてイメージをふくらませる。 ◎どんなものがよいか、作ったものが動くのか、大きなものかなど検討する。 ◎グループごとに交流し、友達の良いところ、工夫したところを伝え合う。

【木下先生 指導・助言】

◎何年も積み上げてきた連携活動。失敗を経験し、積み上げられ、子どもたちが夢中になるような活動になってきた。 ◎**集める保育から集まる保育**に。幼児も1年生も夢中になっているプロセスが見えた。 ◎「動かす」のかどうかは、先生が決めて子どもたちが工夫する。 ◎小学校の先生が、泥んこあそびで「ダイナミックな遊びができる」と言われた。この受け入れが良い。 ◎幼児期に夢中になって遊ぶことでたくさん学び、1年生も夢中になって遊ぶ。 ◎幼児期に育てたものが、児童期につながっていることが目に見えるような活動になっている。

講義

保育の質とは、「遊びの質」「環境の質」「記録の質」である。 幼児は遊び込む、児童は学び込む。 ~木下先生 講義より~

<指導案について>

◎子どもの生の声、つぶやき、感想を入れると、指導案や単元構想表を作るときリアリティが出てくる。 ◎生の子どもたちの姿を大事にされて指導案を作っていく。 ◎指導案、構想表、全体の記録だけでなく、子ども一人ひとりの記録(子どもの感想文、発見カード、クイズづくり、俳句づくり、教えてカードなど)を作ると一人ひとりの個性が大事にされている。 ◎幼児期は一人ひとりの個性を大事にされている。小学校もそのことが大事であり、学んでいることは一人ひとり違う。 ◎幼児期の遊びの中にどんな学びがあるか、**小学校も一人ひとりの中にどんな学びがあるのか**



か、どんなことが育っているのか記録することが大事。

<連携活動について> ◎連携活動は幼児も児童も両方が夢中になるのがよい。 ◎子どもたちのキーワードは夢中になる。**幼児は遊び込む、児童は学び込む。** ◎3つのC **チェンジ、チャレンジ、カリキュラムマネージメント**が大事。 <学習指導要領 改訂について> ◎接続が打ち出され、小学校も真剣に接続を考える必要がある。キーワードは**「開かれた小学校」**。 ◎3つの資質、能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(以下「10の姿」)により、幼稚園、保育所、こども園の整合性を図り、どの施設でも同じ力を身に付け小学校にあがる。 ◎保育の質とは、**「遊びの質」「環境の質」「記録の質」**である。 ◎遊ばされるのではなく、自ら遊ぶ環境、自ら環境へ働きかけることが大事。幼児が遊ばされているのではなく、**遊び込めているかが重要**。幼児期を幼児期として過ごすことが保育

の原点。 ◎園や学校で、子どもたちが主体的に活動するために何をどう変えていこうとしているかが大事。それを明確にしないと何も変わらない。 ◎自発的な活動、生活科を中心に各教科等における学習に円滑に接続していく。 ◎**「10の姿」はねらいではない、ねらいは5領域にある。** ◎「10の姿」を教えるために保育があるわけではなく、遊びのプロセスの中に入っている。遊びの中で学びをしっかり捉えることが大事。 ◎「10の姿」は、幼児教育を小学校にわかりやすく伝える共通言語として文科省が作ったものである。 ◎1年生が学ばされているのではなく、**学び込んでいるかが重要**。 ◎プロセスで何を学んで、何が育ったかを見つめ、園全体で話し合うこと。 ◎日々の遊び、保育、教育の積み重ねが教育課程になっていく。 ◎担任が代わってもできる、続くような活動を作っていく。 ◎**昨年の記録があれば、担任は代わってもつながりができる。**(ビデオ、写真など)

【中筋小学校 なかすじ保育園 池内幼稚園】

◎11月に公開予定。昨年をもとに年間計画を作成した。 ◎学校、園の規模、場所により交流に差があり、別々に交流することもある。

<連携活動について>

11月「つくろう あそぼう(秋の宝物を使っておもちゃづくり)」 9月 虫取り 10月 秋の物を紹介し合う。 ◎当日までに秋の物で試作を作る。(どんな材料や道具がいるかを考える) ◎1年生は自分たちが存分に活動する中で学び、5歳児からも学ばせてもらう。 ◎保育園は昨年小学校主導で参加させてもらっていたが、今年は保育園からも意見を言わせてもらい、子どもたちも1年生に思いを伝える機会を持つように力を入れたい。 <活動の流れ> ◎おもちゃづくり、おもちゃ紹介 ◎近い保育園は短時間で交流、池内幼稚園はビデオレターを使い交流する。 ◎それぞれの園、小学校で取り組んでいる作りたいもの、それぞれの良さをいかし高めたい、学び合いたい。

【木下先生 指導・助言】

◎一方向からだけだったのが、園からも伝えられるようになったことが良い。 ◎実体験から少しずつのステップアップでよい。 ◎紹介はなくても見ている。一緒に作り一緒に遊ぶ活動が良いのではないか。 ◎大きな学校は3クラス同じ活動をとってしまいがちだが、そこからの脱却が必要である。**生活科は柔軟性、弾力性が大事である。** ◎**同じ活動をして、クラスごとに取り組みが違って良い。** ◎大事なことは、3つの資質、能力を育てること。

9月12日 八雲保育園の公開保育を実施しました

参加園

- 永福保育園
- 岡田保育園
- さくら保育園
- 昭光保育園
- 平保育園
- タンポポハウス
- なかすじ保育園
- 東山保育園
- やまもも保育園
- ルンビニ保育園
- 八雲保育園
- うみべのもり保育所
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 朝来幼稚園
- 倉梯幼稚園
- 中舞鶴幼稚園
- 三鶴幼稚園
- 舞鶴幼稚園



神戸大学大学院准教授 北野幸子先生をお迎えし、今年度初めての公開保育が八雲保育園で行われました。 雨ではありましたが、保育者と子どもと相談しながら環境を整え、自分たち自身で遊びを選び工夫する姿や、その工夫を伝え合う姿もありました。毎日の子ども時間の遊びが共有され、つながっていることが感じられました。また、園の環境のすばらしさは、参加者からも関心が高く、参考にしたという声が多く聞かれました。 今年度から、公開園には、事前に乳幼児教育コーディネーターと協議をして「公開保育の研究テーマ」と「公開保育の視点」について明確にいただきました。参加者には、「公開保育の視点」に基づいて保育を見て、その保育についてグループワークを行い、語り合う場を設けました。

【公開保育テーマ】

毎日、子どもペースで遊ぶ「子ども時間」から1日がスタートし、子ども達が自らの興味、関心をもとに遊びを選び、異年齢で交流し合いながら活動している。又、そこで得た発見や気づき、つまづきなどを保育者と子ども達がふり返りの中で共有し、明日の保育へとつなげている。

【公開保育の視点】

子ども自身が興味・関心をもとに選んだ遊びの中で、子ども自ら考え遊んでいるか、工夫をしているか、自分の思いや発見を言葉にしているか、友達同士で伝え合っているか、その中で学びを深めているかを意識しながら保育している。年齢発達なりのこのような子どもの姿を見とってほしい。

公開保育

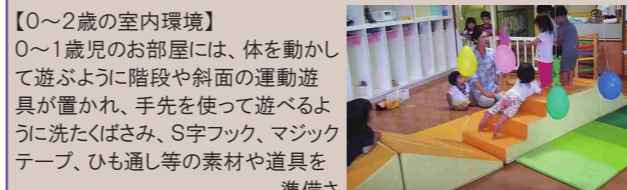
素材・教材の工夫や豊かさが、こだわりやより本質を意識させている

~北野先生 コメントより~

幼稚園教育要領、保育所保育指針にあるように幼児教育は環境を通じた教育です。八雲保育園の環境は、子どもの興味・関心を起点とした環境、発達を意識した環境、遊びをおもしろくする環境など、至るところに工夫や意図が感じられました。その一部を子どもの姿や写真、北野先生のコメントと共にご紹介いたします。

【0~2歳の室内環境】

0~1歳児のお部屋には、体を動かして遊ぶように階段や斜面の運動遊具が置かれ、手先を使って遊べるように洗たくばさみ、S字フック、マジックテープ、ひも通し等の素材や道具を準備され、楽しく遊ぶようになるような工夫が随所にされていました。 2歳児のお部屋には、ごっこ遊びが十分に楽しめるようにお店やさん(パン屋さん)やままごとコーナーがあり、パンに見立てた小麦粉粘土を楽しんだり、やりとりする姿も見られました。



【こだわりのケーキ・コーヒー・ジュースを作って楽しむコーナー】

石けんと水を泡立ててクリームを作り、自然物をトッピングしてこだわりのデコレーションケーキや砂や泥を混ぜて量や色合いにこだわったコーヒー等を作ることを楽しんでいました。また、ヨウシュヤマゴボウ等の自然物を使った思い思いの色合いのとっておきのジュースを作ったり、お客さんにすすめたり、一人一人の工夫や思いの入った遊びが見られました。



【北野先生 コメント】

◎子どもがよく動いている。友達顔を見て笑っていることが多い、目の中まできっぴり見ている。子ども同士のいい関係ができている。保育者がいかに丁寧に接しているか、子どものペース、一人一人に丁寧に関わり、子どもより先に行かない(先導しない)ことを大事にしていることがわかる。 ◎色、音、形、動き、イメージ等の乳児保育で大事にしたい環境がある。隠れたり、消えたり、飛び出したり、指先の動きもある。

【北野先生 コメント】

◎お血についた泥を子どもがぞうきんでふいている。→お血をきれいにしたい。こだわっている。本物、本質を意識している。カップとソーサーの量・数と種類等の**素材・教材の工夫や豊かさが、こだわりやより本質を意識させている。** ◎泥が固まったケーキに泡のクリーム、自然物でデコレーション等→こだわりがあってよかった。



【園庭】

園庭の真ん中に土山があり、この日は、丸太や材木を組み合わせてあり、2、3歳の子も子ども達が車に見立てて遊んでいました。そこには、5歳児が興味を持っているペットボトルの風車が様々な角度で立っており、風の向き、強さ等まさに風を感じられる環境構成がなされていました。

3歳児にはじっくりと遊べる空間が準備され、そこで4、5歳児のしていることを模倣したり、自分なりに試したりしていました。



【北野先生 コメント】

◎平地のただ広い園庭ではなく、土山があるのがよい。動線も楽しめるように考えられている。 ◎風車→風を感じられる。風車の角度が1つずつ違う。調べたり、比べたりができる。 ◎自由度が大きい、やりたい遊びが自分で選べる環境にちゃんとある。 ◎2、3歳の時点で骨格ができている、しっかり遊べていることがわかる。 ◎少し離れたところに3歳児が異年齢児の姿を見て、自己発揮できる環境があるのがよい。2、3歳児は端の方が落ち着く。

つづき

【室内】

各保育部屋には、こま遊びやおしゃれ工房、ステージ、お医者さんごっこコーナー等、遊戯室には、紙飛行機や光遊びのコーナー等の子どもの興味・関心をもとに環境構成されており、子ども自身が選んで遊ぶ姿が見られました。



【北野先生 コメント】

◎ステージとお医者さんごっこのコーナーが同じ部屋にあると音が気になるのではないかと、ステージの上にある衣装は裏方に置いてはどうか。お客さんに「見せる」ことを意識した時、見せる場所、見せない場所を分けると、より「見せる」ことを意識できる。鏡を置くかどうか、どう見えるか、どう見せるかという意識にもつながる。
◎音環境については音量、スピーカーの位置等配慮してほしい。
◎こま回は、振り返りの際取り上げられたことで子どもたちがまた遊び出していた。こまにする素材に改めて意識がいくようになった。



【ドキュメンテーション・展示】

廊下や部屋のいたるところに今まで経験してきた発見や調べたりしたことがそのものの展示やドキュメンテーションで可視化されおり、子どもの学びを更に深めたり、広げたりするきっかけになっていました。



【北野先生 コメント】

◎ゴーヤを開いた時の絵は、子どもが発見した時の驚きや感動がそのまま伝わってくる。こだわりのある絵になっている。
◎重さや種の比較等、気づきを誘いかける展示物がたくさんあり、試したり、思考したりする環境の工夫がある。

グループワーク

今年度より、公開保育後に参加者によるグループワークを実施しています。6つのグループ(6~7人)に分かれ、①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など③子どもを

を主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何か?について協議をしました。その中で、出てきた質問と回答についていくつかご報告します。

(質問1)子ども時間の遊びは、担当を決めているのか。いろんなところで遊んでいるが、把握はできるのか。
(園回答)

◎遊びのコーナーは担当を決めている。子どもがどこで遊んでいるか、何に興味を持っているかは保育者間で共有しているので、把握できている。集中して遊んでいるところは、保育者は見守り、必要なところに入るようにしている。担当じゃないから知らないのではなく、必要と気付いたら関わるようにしている。
(質問2)各クラスの生活のスペースはなかったがどうしているのか。一斉活動はどうしているのか。
(園回答)

◎日頃から子どもの興味の様子や遊び込みの様子を見ながら、少しずつ変えているが、今はこのような遊びを設定している。
◎遊戯室を有効活用し、異年齢チームで食事し、3歳児の午睡も遊戯室を使っている。
◎製作は一斉にすることはしない。おしゃれ工房のところで教人数ずつが作っている。
(北野先生回答)

◎ある幼稚園では、運動会や外部講師を全部やめた。保護者の期待もあるが子どもたちの相互作用の中で、本当に楽しそうな、本当に必要なものは何かと思いつながら、臨機応変にいろいろチャレンジしていくことを大事にしてほしい。
(質問3)漢字を使っているのはなぜ?

(溝邊先生回答)
◎漢字は「絵」ととらえる。概念形成の中に漢字が含まれる。例えば、「飛ぶ」という漢字をイメージしたとする。「飛蝗」この2文字でなんというか、正解は「バツタ」。漢字を見ただけで漢字のイメージが出てくる。子どもは英語のものを日常的に見ている。それが入っていてもおかしくない。平気でイメージ化して頭の中に収めている。
(質問4)3歳児のタンポポドームにはどのような意図があるのか?
(北野先生コメント)

◎3歳児が自己発揮できる環境がタンポポドームだと思う。異年齢で相互作用する環境は、憧れ、一緒にやりたい、見て模倣することができる。同年齢の子も同士の環境は大きい子がしていたことを自分で試してみる、自分なりにやってみることができる。この二つの環境の距離も大事にしてほしい。
(質問5)遊びをより深め、広げるためにはどうすればいいのか?
(北野先生コメント)

◎没頭して遊ぶとは、単に遊んでいるところを認め、思いっきり好きな遊びをするだけではないと思う。
◎今の遊びにこだわってよりリアリティのあるものにイメージできるような保育者の援助と教材の必要性が必要である。より本物らしく、よりきれいに、より見せられるように、ここは教材と保育者の援助と見取りがないとできない。
◎ケーキ皿にケーキを置いて、そのまわりを雑

巾でもくもくふいている子どもがいた。自分の好きなものにこだわって作る経験が十分にされたら、次は作るところに没頭し、より本物らしく、より人に見せようと「他者」という視点が入ってくる。遊びの発展を意識することが大切だと思う。

(例)色水
没頭する→他者を意識する→よりリアリティがあるように発展することが可能である。

1歳まで…興味・関心
2歳…ものを入れて振る、色の認識
3歳…色作り、模倣
4、5歳…比較、見立て、実験
→この発達のイメージを持って今の子どもたちの経験の蓄積はどうなのか、これからどのような援助をするのかを考えてほしい。
(質問6)このような子どもを主体とした保育を実践するためにはどうしたらいいでしょうか?
(溝邊先生コメント)

◎輪になって振り返りするとよい。いろんな園で悩んでいる先生はやってみる。オランダのイェナプランの研修会に参加した時に、異年齢でサークル対話をし、いろんなことを話していた。
◎最初と最後にやることで、遊びのきっかけ、今日はどうだった、明日はどうしたい、次はどうしようときっかけ・振り返り・見通しが持てる。
◎子どもの遊びが始まったり・まとまったり・次どうしようか、みんなで吟味・見直しを持つことになる。

カンファレンス
溝邊 和成先生

本物でこそ本物の遊びが生まれる。
本物へのアクセスは学び込む、遊び込む姿から生まれる。~溝邊先生指導・助言より~

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。

八雲の「八」にちなんで8つの写真を見ながら、コメント。

- ①ピンの中に入った色水
色が変化していることを学べる環境構成。「できた・〜だったね・おもしろかったね」ですませない学びの本質につながっていく設定があった。
- ②どんぶりの泥水の中に緑の茎
葉っぱがついている茎から葉っぱをちぎって茎の所だけ持ってきて、緑の茎でラーメンを作っている。緑の茎はスーパーで買っているのと同じイメージで、つんできている。見立て方は本物へのアクセス。その環境があることはすごく大きな意味がある。
- ③ケーキ作りの机にあるピンに



それぞれ4種類の土が入っている。置くだけではっきりと土がどうなるのか、土と土が混ざったらどういう変化が起きるのかわかっていく。遊びの本質を深める、遊び込むというアクセスが生じる。混ざったらどういう変化が起こるか理解できる。

- ④ケーキ作り等をする道具は本物の料理器具。本物へのアクセスは本物でないといけないということ。
- ⑤子どもの作ったコーヒー(本物のカップ、ソーサー、スプーン、泥水、泡)
よく見るコーヒーはコップにただ色がついた水が入っていて、「コーヒー屋さん」として遊んでいるが、ここは本物。ソーサーまでつけてどうやれば、どういう形で、どういう姿になればコーヒーショップを開くことができるか模索している。本物でこそ本物の遊びが生まれる。本物へのアクセスは学び込む、遊び込む姿から生まれる。
- ⑥2歳児の保育室のパン屋さんコーナーに「パン屋」と漢字で書かれていた。「屋」という漢字

は小学一年生でも学ばない。パン屋がこの形、この色、この絵、看板の右側のお店の形が伴ってパン屋が成立する。このシーンそのものが遊びのストーリーである。
⑦子どもが書いたコーヒー牛乳の文字「コーヒーぎゅうにゅう」をどう読んだらいいか?文字の順番ではない。これがコーヒー牛乳だと示している。このシーンを思い浮かべる。カタカナ、漢字、英語、ひらがな。自分が使いたい手段でイメージしている。ブラックコーヒーのコーヒーが「コフヒー」と書いてあった。
⑧男の子がコーヒーをこしている姿を一生懸命見ている女の子。
何が起きていくのか、こうなるんだろうと自分なりに大きな予測を持って結果を確認しようとしている。これこそがアクティブラーニングと言える。



カンファレンス
北野 幸子先生

子どもの声を素通しさせるのではなく、聞き流すのではなく、可視化し、かつ共有している。
~北野先生指導・助言より~

◎保育の評価者は子ども。保育は答えが一つではない。子どもが変わるし、普遍的な要素が確実にあるわけではない。それは、保育の探究が楽しいこととも言える。

- ◎八雲保育園はとことんチャレンジしている。主体性を探究している。
- ◎デンマークの保育は、好きな時にランチを食べる。園長の仕事はみんながご飯を食べたか把握するだけ、午睡も寝たいときに寝る。乳児はそうはいかないが、眠たくない子どもは午睡をしなくていい。お茶の水の附属幼稚園でもチャレンジしていこうとしている。
- ◎子どもたちの笑顔が多かった。

【乳児保育】
◎0、1歳児は目を見てのコミュニケーションがあった。未満児は、保育者とのラポール中心で保育者の顔を見ることが多い。たくさんの子どがいるから、あれもこれもと見て全体把握だけに気がいってしまうとその姿は見られない。
◎子ども同士が目を見て笑い合っている。日頃、保育者がじっくり丁寧に一人一人に接している、とことん関わっている。
◎2歳児のごっこ遊びでは、ごっこ、見立てが多かった。

【保育者の関わり】
◎子どもの発言、問いかけに対する保育者の肯定的な言葉が多い。
例)「恥ずかしい」と言う子どもに、保育者が「そういうこともある」と返していた。「疲れた、おもしろくない」と言う子どもに、保育者が「おもしろいと思うよ。」と返す。
例)「真似した」と怒る子どもに、保育者が「真似っていいことよ」と全体に伝えている。
◎ネガティブ・マイナスを全部肯定的に捉え、肯定的に返す。子どもへの影響は全然違うと思う。
◎保育者の「いっぱいってどんなこと?」という問いかけは、探究心を深めている。
◎子どものさらなる好奇心・意欲・発展を促す接し方がたくさんあった。

◎スタッフ同士の尊重を園が徹底している。管理職の方がスタッフに対し、肯定的。同僚性の形成・リーダーシップマネジメントができています。

- 【環境】
◎遊びがおもしろくなる環境の工夫が至るところに見られた。泥も砂もすごくこだわっている。
- ◎おままごと、色水、泡の場所が5歳児中心のところと3歳児のところがある。十分に同じ教材がある。5歳のところでは3歳が引き気味だが、よく見ている。モデルを見て、真似をしている。3歳のところでは3歳児が自己発揮している。2つを上手に組み合わせている。
- ◎異年齢保育をしているところから出てくる質問に①語彙の差が著しいのに話し合いが一緒にできるのか、②鬼ごっこをした時等の運動能力の差が著しいのに一緒にしてもいいのかが、ある。それは、空間と子どもの関わりと保育者の援助の工夫によって可能になるのではないか。
- ◎年齢ごとの集団の活動を担いしつつ、かつ両者の相互作用があることは大事だと考える。
- ◎空間の工夫、異年齢で遊ぶところと平行遊びが可能な空間・距離・教材がしっかりある。
- ◎ままごとのエスプレッソのコーヒーの泡をどれだけ具現化させるか。透明な水を作ろうと「こし器」や布でこして、しまっている子どもの姿があった。
- ◎廃材、ペットボトルの多さが教材の豊かさ=工夫。お金がないからできないのではなく、工夫によって教材を豊かにできるのではないか。
- ◎疑問・問いを上手に拾っている。種をとことん並べたり、水をすう花はどれ?名前は何?どれが一番重たいかな?→子どもの声を素通しさせるのではなく、聞き流すのではなく、可視化し、かつ共有している。極めて集団的な育ち・学びを促していると思う。
- 【設定保育は必要?】
◎豊かな経験を保障するために選択肢を十分

に作る。←選択肢のない子どもは遊びを選択できない。設定保育はあって悪くないし、短絡的には言えないと思う。

- ◎設定保育と好きな遊びは二項対立ではなく、好きな遊びとは、小規模な設定保育が同時進行で行われていると考えている。
- ◎楽しむ、親む、味わう…幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらい・内容が好きな遊びになくていい訳はない。
- ◎遠足に行った後、一斉に集めて紙を一枚配って絵を描かすことをやらない園が世界中で増えている。描きたい子ども5~6人ぐらいに保育者がついて絵を描く、あるいは作る、経験を表現する、感じた気持ちを表現するというねらいを達成していれば、それが設定保育になると考えている。
- ◎一斉にみんなでするのか、しないのかは子どもの様子、家庭教育環境の格差、経験の豊かさの格差を鑑みながらも柔軟に捉えてほしい。
- 【運動遊び・音】
◎歌の音、歌詞の内容、テンポ、リズムをどう捉えるか考えてほしい。
- ◎音の大きさはどういう機能が考えてほしい。
- ◎音遊び、リズム遊びをする時、見ている待っている子どもたちは何をしているのかも考えてほしい。
- 【振り返り】
◎保育者が子どもの名前をたくさんあげてくれてよかった。
- ◎用意された環境でしゃべらされていると、子どもが保育者に向かってしゃべりやべらない状態になりやすい。一番しゃべらされているセリア「へは、…で、一です。」これは言わされていることが多いと感じている。
- ◎子どもが子どもに質問するなど、創意工夫をしてほしい。

乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成29年12月15日
発行者 舞鶴市健康・子ども部

10月12日 公開保育を実施しました

永福保育園・城屋園舎(分園)にて公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生よりご指導をいただきました。

永福保育園・城屋園舎(分園)ではアットホームな雰囲気の中、1歳児～5歳児まで15名の子どもたちが生活や遊びをともにしています。小雨の降る中ではありましたが、異年齢で関わりながら、自然豊かな環境の中で自分のしたい遊びを思う存分楽しむ子ども達の姿が見られました。

【公開保育テーマ】

◎1歳児～5歳児まで15名の子どもたちを自然豊かな環境のもと、少人数でアットホームな雰囲気を大切にしながら保育している。異年齢の子ども同士が遊びや生活を通じて関わり合いながら、人と人とのつながりを深めていけるように見守っている。

【公開保育の視点】

◎異年齢、少人数ならではの関わりや育ちの姿を見とってほしい。

参加園・校

永福保育園	池内幼稚園
岡田保育園	舞鶴幼稚園
さくら保育園	
なかすじ保育園	大浦小学校
東山保育園	高野小学校
八雲保育園	
ルンビニ保育園	※50音順
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

公開保育

城屋園舎(分園)の環境は、山・川・木々に囲まれ自然豊かで子どもにとってとても良い環境。子どもが自己を発揮できることが大切であり、自己発揮する子が伸びる。

～北野先生 コメント～



【朝の集まりリズム】
1歳児から5歳児までがホールに集まりピアノに合わせて思いきり体を動かしたり、動物になって思い思いの表現を楽しんでいました。

大きい子が小さい子の手をつなぎ、安心させてあげている微笑ましい姿も見られました。



【戸外遊び】
外遊びでは、自然に年齢ごとのグループができていました。2、3歳児は、砂や水の素材を感じもくもくと遊ぶ姿、4、5歳児は友だち

ちとイメージを共有しながらごっこ遊びを楽しむ姿など、それぞれに年齢発達の特徴が見られました。



【北野先生 コメント】

◎土間は天井が高く、開放感が感じられる。雨でも遊べるのがよい。園庭に築山があるのもよかった。
◎年齢ごとに集まって遊んでいるのは、言葉でのコミュニケーションがしやすいからとも言える。年上の子が少ない事も言葉の少なさに関係しているかもしれない。しゃべりたい気持ちや伝えたい気持ちは、意欲が育っていることが大事だと思う。
◎保育者は指示や命令がなく、子どもの目をよく見て余裕ある関わりをしている。少人数と関わることで個々を見れるようになる。
◎台と椅子がもう少しあるとよいと感じた。テーブルにもなり作ったものを飾る場所にもなる。
◎子どもが見える所や手の届く所に、簡単に生長して枯れる植物を育てるとよいと感じた。



グループワーク

【永福保育園・城屋園舎について】

永福保育園・城屋園舎(以下:分園)では長年地域の中の保育園として120名の定員で子ども達の保育が行われてきました。平成23年に公文名地区に園舎を新設した際、地域の方々と共に歩んできた城屋園舎を残し、自然豊かな環境の中で子ども達の成長を育みたいとの思いから、30名定員の分園としてスタートしました。公文名園舎(以下:本園)へ行き来し、子ども同士が交流したり、運動会や発表会などの行事を一緒に行っていきます。

【グループワークより】

公開保育後の参加者によるグループワークでは、①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など③子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。

多くの先生が感じられたこととして、「自然環境が豊か」「小規模なので子ども達一人一人が主人公になれる」「保育者が一人一人にじっくりと関われることで良いところや課題が見えやすい」などの意見がありました。

【北野先生コメント】

◎子どもにとって分園は安心できる居場所となっている。十分に自分を出して自己発揮できる環境で育っている。こうした分園の子ども姿や少人数のよさを本園の保育にもいかして欲しい。

カンファレンス



グローバル化、情報化が進む社会で生きていく子どもには、与えられたことに対して答えを出すだけの力ではなく、発想力やイマジネーション、クリエイティビティが大切になる。
～北野先生 コメント～

にくく、見上げている感じがした。保育者は椅子に座って読む方が子どもの視線の高さが同じになる。

【運動遊び・歌】

◎ホールでの遊びが短かったので、もう少し動いてもよかった。みんな一緒にと思いがちだが年齢差があるので、乳児は5分、幼児は15分ぐらいがよいと思う。

◎リズムは大きい動きやゆっくりな動き等様々な動きがありよかった。

◎3～5歳児には保育者がモデルをし過ぎず、自分で考えられるようにすることも大切だと感じた。

◎歌は「元気に、楽しく」だけでなく、4・5歳児は音聞きながらピアノに合わせて、音程を合わせ歌うこと、5・6歳児は歌詞の意味を味わいストーリー性を考え歌うことを保育者が意図的に意識することが大切だと考える。

◎おやつ時に「いただきます」の歌を歌っている園は多いが、子どもの様子を見ながら取り入れるように考えてほしい。

【幼児保育】

◎3歳児は素材とじっくり関わり、やりたいことを黙々とする。水をくむため水道まで行っていたが、タライを置いておくとずっと遊びに集中でき、集中が続くのではないかと感じた。

◎5・6歳児の子どもは話したことがなくても100人位の他者の認識や特徴、人間関係がわかると言われている。だからこそ多様な人との関わりを作っていく必要がある。

◎子どもは怒鳴ったり怒ったりしたいりするものがなく、言葉で伝えようとする姿が見られた。

◎言葉の獲得や人との相互作用が大切なので、幼児だけ集まり振り返りなどをやる時間を意図的に持てはどうか。

【環境】
◎4・5歳児はイメージした物に近づけようとしていたり、リアリティを追求しようとする。つぶしたり、色が出たり、においがある加工できる素材(どんぐり、はっぱ、草花)や、すりこぎ、じょうろなどがあると思う。

◎1歳児が砂遊びをしている所に、保育者が台を持ってきたのは適切だった。座ると下だけ見えてしまうが、立って遊ぶことで視線が変わり、友だちが見える。

◎椅子4～5個、ビールケース5個あると、土間に更に1～2個のコーナーができる。

◎これからの時代を生きる子どもには、与えられたことに対して答えを出すだけの力ではなく、発想力やイマジ

ネーション、クリエイティビティが大切になると思う。

◎今やっていることが必要なことなのか、子どもの姿から保育を見直してほしい。



10月11日 ドキュメンテーション研修を実施しました。

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれて行ったグループワークでは、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議を行いました。今回のドキュメンテーション研修には、初めてドキュメンテーションを書かれたという先生や、何度も書かれている先生が同じグループで保育を語り合い、活発な意見交換をおこなっていました。

北野先生の講義では、グループで協議したドキュメンテーションの一つ一つについて、丁寧に、具体的にご指導いただき、ドキュメンテーションを提供して下さった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。

参加園

永福保育園	西乳児保育所
さくら保育園	シオン幼稚園
タンポポハウス	舞鶴幼稚園
東山保育園	
八雲保育園	
うみべのもり保育所	※50音順
中保育所	

知識や能力は経験の蓄積によって後からついてくるもの。
乳幼児期には経験の蓄積こそが大切である。

～北野先生 コメント～

【グループワーク報告】

グループワークの後には、初めてドキュメンテーションに挑戦された先生をはじめ、ドキュメンテーションを提供して下さった先生から感想を含めた報告をしていただきました。その一部をご紹介します。

◎これまでは子どもの「先生見て」という言葉をさっさと受け流していたが、子どもが自分自身で働きかけて何かができた喜びは大きいんだということを、協議の中で気付くことができた。

◎他園のドキュメンテーションを見て、保育者の関わりや環境について気づけることがあった。いろいろな人の話を聞いて視野が広がった上、今後自分の保育に取り入れてみようと思った。今回ドキュメンテーションを持ってきてよかった。

【ドキュメンテーション指導】

◎1歳児事例「上手にすぐえるかな？」

「上手にすぐえるかな？」という題名は保護者が達成度にとらわれる危険性がある。題をつけるなら「楽しくすぐえるかな？」いろいろなすぐえるかな？」など相対的な評価で伝えられないようにすることが大切。

◎乳児は試行錯誤の前の「意欲」と「経験の蓄積」を大切にしよう。

◎1歳児事例「入るかな？」

1歳児がペットボトルに色々な物を入れてみようとする姿は、試行錯誤というよりは物に興味をもつ、試すという姿。こうした子どもの姿が意欲を持つことへとつながっていく。
・能力を育てるためにあれこれさせるのではなく、経験の蓄積に



よって気付けば能力が育っている。豊かな経験を可視化する。

・誰に向けて書いているのか、ということを意識することが大切。書き終わった後に自分で読み返し、客観的に捉えてみてほしい。

・その時期の発達の特徴をしっかりと捉え伝えるためには、一度に多くを書かず、絞り込むことが必要。それができていないとぼやけてしまう。

◎2歳児事例「なににみえる？」

子どもの「これなに？」の問いかけは、「何に見える？」というイメージを聞いているので、保育者が「答えを引き出すために〇〇した」という書き方では、「答え」を出すことが大事と捉えられてしまう。保護者が誤解しないように書いてほしい。

・感性やイメージの共有が大事であり、間違いや知らないということを指摘しないことが大事だと思う。

・保育者の意図の部分が伝わりにくいところがあるので、子ども同士の関わり合いや相互作用の機会を引き出すためにどういう意図をもつて関わったか、環境の設定等を具体的に書いてほしい。
・固有名詞を聞いている時は、きちんと応えてあげることがよいと思う。

◎2歳児事例 散歩

「子どもを待たせ」という表現は、誰が待たせたのか、カメラを見つけたのは誰かがわかりにくい。
・待たせる、させる等の使役語は大人が与えたような保育の印象を受けられるので、保護者は誤解を受けやすい。見つけて・探して・触れることができてうれしい、という達成感を伝えてはどうか。

◎3歳児事例 菜園活動

・保育者の解釈と子どもの育ちが混在している。と保護者はわかりにくい。事実と解釈を分けて書くことを意識すると、子どもの育ちが見えやすくなる。

・保育の現場にいない人にもわかるように客観的に書くことを意識する。

◎4歳児事例「風船ごっこ」

・遊びが、子ども自身の「問い」や「やりたい」という気持ちになっているか。実践しながら子どもの様子を見てほしい。

- ①物を置いておく(環境構成)
- ②やってみせる(保育者がモデルになって)
- ③誘いかける言葉かけ
- ・見ように指



示するのではなく、見たくなるような姿を保育者が見せることが大切。

◎4歳児事例「自然の不思議」

ドキュメンテーションの中に3つの経験がある場合、一つ一つの経験ごとに考察をしてはどうか。つながりがあれば保護者にもわかりやすい。

・「できるようになる」という表現は使わず、「楽しむ・味わう・親しむ」と表す方が誤解されないのではないか。
・経験をやる中で知識や能力は気づいたらついてくるものである。

・「意欲のある」というのは子どもの様子、どんな言葉、どの写真であるか、保育者自身で見直した時、写真や文章の中から子どもの様子が伝わってくるかをよく見てほしい。

【ドキュメンテーションを書く際に意識すること】

◎ドキュメンテーションは、子どもの生活や遊びを見ていない人に伝えるためのものである。書き方には気をつける必要がある。

◎これで100点満点ということではなく、いくらでも工夫を積み重ねていけるものである。答えは1つではないので、一緒に考えてほしい。
◎土を埋めていくのではなく、築山を作っていくようなイメージで、不足を問うのではなく、蓄積、加算的に捉えていく。

◎主語が抜けていることが多いので、誰に対して書いているのかを意識することが大切。形容詞だけでは伝わらないので、試している様子、一生懸命な様子を子どもの姿を通して、「なにを」「だれが」「どうやって」を具体的に書く。

【ドキュメンテーションをもとにした振り返り】

◎多くの人と振り返りをする中で楽しさが感じられる。

◎自分の良さに気づき自信につながる。

◎他者の目から振り返ることで、自分の気付かなかったことに気付く。

◎自分の引き出しが増える。

ないか。指導案は書きっぱなしになると意味がなく、振り返って見られる指導案になるとよい。

【事例の検討をして】

◎環境構成が大事。物だけでなく、時間の確保、保育者が待つことも環境構成。

◎子どもが挑戦し失敗してもやりなおせる時間と学びを広げるための時間が必要である。
◎「10の姿」をやればやるほど、「10の姿」とは何だろうと考えることが必要。

◎文だけでなく、そこに言葉と付加できる、意味づけができることよと感じる。

11月9日 中舞鶴幼稚園の公開保育を実施しました

参加園・校

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	池内幼稚園
さくら保育園	倉梯幼稚園
タンポポハウス	橋幼稚園
八雲保育園	中舞鶴幼稚園
うみべのもり保育所	三鶴幼稚園
中保育所	舞鶴幼稚園
西乳児保育所	中舞鶴小学校

中舞鶴幼稚園において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生に指導・助言をしていただきました。

中舞鶴幼稚園の裏山には、どんぐりやしいの実等の木の実がたくさんあり、子ども達が木の枝や木の葉、裏山の赤土等の自然物を遊びの中に取り入れて遊んでいました。5歳児は、裏山に秘密基地を作る遊びが継続していたり、4歳児はだんご作りや春から続いている泡遊びなどを楽しんだり、3歳児は、砂や土を使って料理したり、ごっこ遊びを楽しんだり、自然と関わりながら自分の好きな遊びを楽しむ姿がありました。

廊下には、さつまいものつるの長さやどんぐりの重さ比べ、葉っぱや木の実の名称等、体験してきたことが子どもにもわかるように展示してあり、工夫が感じられました。室内でも製作やごっこ遊びがいつでも楽しめる環境になっており、特に5歳児は、部屋全体が「おぼけやしき」になっており、遊びが続いている様子も伺えました。



【公開保育研究テーマ】

中舞鶴幼稚園では、人が人として育つための土台を形成すること、想像力、創意工夫する力、探究心や表現力、意欲、粘り強さなどの非認知能力を育てることを大切に、将来大きな木へ成長させるため、心のねっこを育てることを保育目標としている。子どもの興味・関心をもとに環境を構成し、その遊びを充実させ、友達との関わり、人との関わりを深める保育を目指している。

【公開保育の視点】

- ①子どもの興味・関心をもとに環境が構成され、遊びが展開しているか
 - ②保育者や友達と関わっているか
- このような視点の姿が見られるか保育の中で見とってほしい。

公開保育

机、椅子の数、位置など子どもの遊びの様子から、置いていく遊びをより楽しくするためにはイメージを共有するためのモノ(素材・教材)が必要

～北野先生 コメントより～



【4歳児だんごづくり】

自分なりにどうすれば思い通りのだんごができるのか試行錯誤する姿が見られました。うまくいわず困っている子には、さりげなく保育者がアドバイスをしたり、友達の様子を聞いたり、関わっておられました。



【3歳 土・砂で遊ぶ】

フライパンや鍋の中に土や砂、水を入れてお玉で混ぜ合わせてお料理したり、お皿に盛りつけたりして遊んでいました。また、お母さん、お父さん役になりきってごっこ遊びをする子や、砂・土、水を使ってだんご作りをしようと試行錯誤している子等、自分の遊びを楽しんでいました。

【北野先生 コメント】

◎机・椅子の数、位置など子どもの遊びの様子から、置いていくのはどうか。子どもが集中して自分の遊びを楽しむところと、ごっこ遊び等いっしょに遊ぶところの環境設定は違ってくる。
◎子ども同士をつなげるところには机、椅子等を置き、ままごとは、作業しやすい高さも考える。
◎屋根があり、雨でも遊べるところがよかった。

【北野先生 コメント】

◎4、5歳児には机の高さは低すぎる様子だったので、子どもの様子に合わせて整えていく。
◎園庭の端の落ち着いた空間で遊んでいる子もいたので、そこに机等を置いてみてはどうか。



【5歳児 山遊び～基地づくり、落とし穴づくり】

朝から、裏山での遊びに夢中になっていました。斜面をロープで登ったり、落とし穴を作ったり、基地の中でごっこ遊びを楽しんだり、自分達の世界を作り上げながら遊ぶ姿がありました。基地では、魚釣りに行き、料理をする遊びを楽しんだり、落とし穴にうまく落とすにはどうすればいいか相談したり、斜面を登る時には声を掛け合って登ったり、協同して遊びをすすめている様子がたくさん見られました。



【北野先生 コメント】

◎秘密基地の遊びをより楽しくするためにはイメージを共有するためのモノが必要になってくる。木の枝、段ボール等いろいろな素材を取り入れていくイメージも広がるのではないかと。
◎これらの遊びにはストーリー性が見られるので、子ども同士で共有していくともっと楽しくなる。

10月26日 第3回 保幼小接続カリキュラム策定会議 開催しました

第3回の策定会議では、グループに分かれ保育所・幼稚園から収集した0歳～5歳までの事例と5歳児と1年生との保幼小連携活動の事例をもとに、子どもの学びや育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」で捉えるための協議を行いました。連携活動の事例収集には、各委員の皆さんにご協力いただき、市内で実施されている連携活動を参観し、記録をとっていただきました。協議後に会長でもある兵庫教育大学大

学院教授 溝邊和成先生よりご指導いただきました。
【記録の様式について】
◎事実をもとに記録が書かれている。
◎子どもの発言が一番大事。子どもが言っていないが、言ってほしいことを書いてしまうことがあるが、そこは言葉として書かない方がよい。
◎1年生が一生懸命書き綴っているノートも事実となり非常に重要。絵も意味がある。
◎この様式を保育所・幼稚園の指導案に使用

ないか。指導案は書きっぱなしになると意味がなく、振り返って見られる指導案になるとよい。
【事例の検討をして】
◎環境構成が大事。物だけでなく、時間の確保、保育者が待つことも環境構成。
◎子どもが挑戦し失敗してもやりなおせる時間と学びを広げるための時間が必要である。
◎「10の姿」をやればやるほど、「10の姿」とは何だろうと考えることが必要。
◎文だけでなく、そこに言葉と付加できる、意味づけができることよと感じる。

グループワーク

否定するのではなく、肯定的に経験と共に伝えていく ～北野先生指導・助言より～

公開保育後に参加者同士で保育を語るグループワークを実施しています。①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問等③子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。それぞれのグループで話し合われたことを報告し、公開園の先生や北野先生への質問も出されました。

【グループワーク報告】

- ◎5歳児の振り返りでは集中して聞いていた。言葉でのやりとりがたくさんあった。
- ◎山での遊びは魅力的。秘密基地、魚釣りの遊びは、子どものイメージがふくらみ、葉っぱを魚に見立て、魚の種類に関する言葉や経験の言葉が多く聞かれた。
- ◎落とし穴作りでは、子ども同士で考え工夫する姿が見られた。
- 【質疑応答】
- (質問1)
- ◎普段からこのような環境を設定して遊んでいるのか。5歳児クラスの「おぼけやしき」はいつまで続けるのか。雨の日等、室内でもクラスを越えて遊んでいるのか。(園回答)
- ◎外の環境は、今、子ども達が興味を持っていることに合わせて環境を変えている。
- ◎3歳児の子たちを驚かせたいとはりきっている。

る。おぼけやしきごっこが終わり、満足できたら元に戻すと思う。

◎4歳児のお店やさんごっこ等はみんな楽しんでる。(質問2)

◎子どもがしいの実を「804」数え、数を書く時に「8004」と書いていた。その時の保育者の関わり方についてアドバイスがほしい。

◎時計や数字の表記についてどのように考えとよいか。(北野先生回答)

◎よくある間違いではあるが、間違いは否定せず、気づかせることは必要である。保育者が「800」と「4」を分けて○で囲み、その下に「804」と書く。文字も逆さになったり、鏡文字になったりする事はよくあるが、**否定するのではなく、肯定的に経験と共に伝えていく。「間違っている」と否定されると強く残ってしまうことがある。**

◎時間には、「○時○分」という時間と「○時○分から○時○分まで」という時間の間隔という捉え方がある。子ども達は生活の中で経験として使っているが、その理解については個々によって差がある。デジタル時計は単なる数字の並びになってしまいがちなので、「3～5まで」等始まりと終わりが分かる時計が望ましい。視覚的にわかりやすい方が子どもは理解しやすい。経験として時間をどう意識していくかやその子に応じた対応等は考えてほしい。



行事にも日々の遊びを取り入れ、生活と遊び、行事が分断しないように

～北野先生指導・助言より～

発見や遊びをみんなで広げて、やりとりするともっと楽しくなる。

【5歳児】

◎「いいよ」「いいんじゃない」等受け入れの言葉、優しい言葉が聞かれた。振り返りでも子ども同士のつながりを意識していくと、もっと遊びが広がっていくのではないかと。

【その他】

◎お片づけの際、BGMが流れていたが、子どもが考えて片づけていくことも大切ではないかと。

◎デンマークでは、給食、午睡など自分で考え決めている。**ルーティン化しているものを自分で考えるようにするとよいと思う。**

◎机は4、5歳には低い。3歳にはちょうどよかった。遊びを見て、大きさ、高さを見るとよいと思う。遊びも発展していくのではないかと。



カンファレンス 北野 幸子先生

行事にも日々の遊びを取り入れ、生活と遊び、行事が分断しないように

【山での遊び】

- ◎保護者に伝わるようにドキュメンテーションに山での遊びのことを書いてあり、よかった。
- ◎山の環境がとてもよかった。安全、安心をしっかり確保して行ってほしい。
- ◎チャレンジする時(3歳児の山登り)には、しっかり保育者が見守っていた。子どもに経験させて、ほめて認めていくことも大事である。登ることで達成感が味わえる。
- ◎山での遊びは、①登ること②モノに対する気づき③葉、木の実、枝④場所に対するこだわり、イメージ⑤基地、家⑥ストーリー性、のように広がっていくとより楽しくなる。
- ◎イメージを豊かにするための素材(段ボール、木)があるとよいと思う。イメージを持つことで、ごっこ遊びにもつながり、役割分担もできる。
- ◎基地等場所へのこだわりがあり、大事なところだからこそ、綺麗にしようとする。そして思い入れもできる。
- ◎廃材などたくさん使い、保育者も楽しんで保育してほしい。



【おぼけやしき】

◎6月から続いている遊びではあるが、運動会等の行事の期間はどうしても途切れてしまう。**行事にも日々の遊びを取り入れ、生活と遊び、行事が分断しないように工夫**してほしい。

◎行事(運動会、生活発表会等)にも「おぼけ」を取り入れ、ストーリー性を持たせていくと楽しくなる。

◎子ども同士が話し合った結果や内容を書いてあり、子どもにとっても共有できるようになっている。

◎子どもの創意工夫、オリジナリティは自尊心につながっていく。

【3歳児】

◎子どもが落ち着いている。

◎保育者は経験が豊かなゆえに子どもの姿を先々予想しすぎてしまいがちである。時には、待つことも大事であり、子どもが訴えてくるまで待つてみてはどうか。

◎フックスライダーの遊びは、子どもたちに考えさせ、創意工夫して楽しめるように見守ってはどうか。

◎**順番通り、手順通りではなく、予測しないことが出てくることを期待して見守ってほしい。**

【4歳児】

◎保育者と子どもの信頼関係ができています。だからこそ、振り返りは、スクール形式(対面)ではなく、サークル形式にし、子ども同士が話せるように保育者がつなげていくよいと思う。

◎一人一人の単発の発言ではなく、ひとつの

11月8日 ドキュメンテーション研修を実施しました

参加園

- 永福保育園
- さくら保育園
- タンポポハウス
- 八雲保育園
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 朝来幼稚園
- 池内幼稚園
- シオン幼稚園
- 舞鶴幼稚園

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれて行ったグループワークでは、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議を行いました。北野先生には、ドキュメンテーションの一つ一つについて、改訂(定)保育所保育指針(以下:指針)や幼稚園教育要領(以下:要領)の「保育の内容」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(以下:10の姿)と照らし合わせながら解説していただき、ご指導いただきました。ドキュメンテーションを提供して下さった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。ドキュメンテーションを提供して下さった先生方ありがとうございました。



0歳児の発達には5領域よりも未分化である。「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の視点をういて書く。

【0歳児のドキュメンテーション:気づきの場面/外遊びの場面】

◎0歳児の発達は5領域よりも未分化である。指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」の「**健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の視点をういて書く。**

◎この事例は「身近なものに関わり感性が育つ」という分野の育ちであり、いずれ、「10の姿」の「自立心」「豊かな感性と表現」につながるものである。

◎0歳の発達として、まず自分が物に何か関心を持って気づいている。これが、後に探索活動や単語の習得につながるということから、0歳児のテーマとして『気づき』はよかった。

◎興味・関心を持つ、探索、諸感覚を使いながらという発達の特徴を書いていく。

◎子どもが「なぜ」気づいたのか、「どうして」試したのかに注目することで、どんな感覚を使って物と関わっているのか、きっかけや背景に気づける。

◎そのことで必要な環境構成や関わり工夫を振り返ることができ、保育者としての専門性が書きやすくなる。

【2歳児のドキュメンテーション:エプロンシアターを見ている場面】

◎2歳児の発達である繰り返しの展開を好んだり(言葉:内容の④)、感情移入して物語に入り込む(表現:ねらい②内容④)という場面である。

◎まとめの考察に5領域や「10の姿」の言葉が入るとよいのではないかと。

◎保育者の専門性を謙虚にせず、もっと書いてほしい。どんな工夫をしたか、どんな意識を持っていたか、環境構成、関わり、援助の工夫などを1つでも入れるようにしてほしい。

【3歳児のドキュメンテーション:お医者さんごっこ】

◎人といふことの楽しさを感じる、他者への関心が高まっている、ごっこ遊びの宝庫という3歳児の育ちがみえる場面である。

◎子ども達がなぜ興味を持ったか、なぜ気づいたかという背景までしっかりと書いてある。

◎イメージが盛り上がるには媒体となる玩具・教具が必要であり、子どもの姿に応じて保育者が用意したことが記入してあることがよいと思う。

◎「健康な心と体」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「協同性」の育ちの部分も記載してほしい。

【4歳児のドキュメンテーション:製作活動の場面】

◎ねらいに使いがちな「～イメージしながら作る」では保護者は「作ったもの」という結果に注目してしまう。プロセスに注意を向ける言い回し「作る中で創意工夫する」「イメージしながら作ることを楽しむ」「自分らしさを発揮する」等、にしてはどうか。

◎試行錯誤している様子もしっかりと記載されているが、「完成」という言葉と完成の場面が目立つため、結果主義に陥っている保護者が結果だけに注目しがちなレイアウトになっている。

◎途中の試行錯誤、創意工夫、協力しているところに注目させて、できあがり提示しすぎない書き方を考えてみてはどうか。

【5歳児のドキュメンテーション:ボーリング遊び/竹馬】

◎場面の中にも含まれる「10の姿」に○を付け

る項目がある用紙であるが、保護者には子どものどんな姿がどこにつながるのかが、わかりにくいように感じる。

◎「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の項目に○がついていても、その中の「数量」に関する部分のみの学びである場合、誤解を生むこともある。

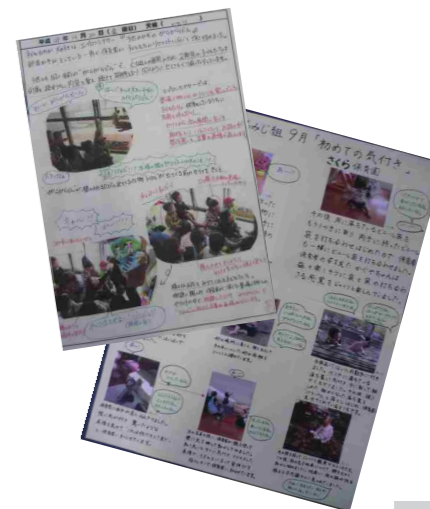
◎書いている場面の内容よりも広い範囲(文章に表れてない場面)のことまで、考察を書いてしまっていないか気をつける。

◎5歳児としての大切な育ちが考察にしっかり出ているため、考察の発達のキーワードが子どものどの姿か、見てわかりやすいように一致させてはどうか。

◎竹馬の場面では、特に保護者にとっては結果主義でとらえやすいと思う。互いに認め合う・繰り返し挑戦する姿を「健康な心」「自立心」「協同性」「思考力の芽生え」、充実感等の学び・育ちに注目して書くことよいのではないかと。

【全体を通して】 ◎結果主義の表現を控えるようにする。「上手にする」「～した気になる」「～できた」という表現は避ける。

◎保育者の関わり、指針にある発達のキーワードを用いて書くように意識する。また書き終えた後に保護者の目線に立ち、結果主義の表現になっていないか、様子や学びがわかりやすいかをもう一度見直すことが大切である。



中筋小学校、池内幼稚園、なかすじ保育園で保幼小連携公開授業・保育を実施しました。

今年度の連携活動は、1回目「なつだあそぼう」での水遊び、2回目「むしをさがそう」、3回目「たのしいあきいっぱい」での自然に触れての活動を経て4回目となり、夏の小学校教育研究会生活科部との合同研修で作成した「あきのたからものであそぼう」の連携活動プランをもとに連携活動が行われました。

この研修で計画した連携活動プランに基づく活動は市内のどの協力園・校も実施することとなり、参加してくださった教員や保育者の皆さんにとって大変学ぶことが多い内容となりました。

公開授業・保育の後はカンファレンスを行い、鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生にご指導をいただきました。

日時:平成29年11月13日(月) 10:10~11:15

場所:中筋小学校体育館(A、Cグループ)

なかすじ保育園遊戯室(Bグループ)

公開授業・保育の様子

[ねらい]

1年生

○身近にある自然物から使ってみたいものを選び、試したり見立てたりして工夫しながらおもちゃを作ることができるようにする。

○友達や年長児と関わりながら、工夫して遊ぶ楽しさを味わったり自分や友達のよさに気付いたりする。

5歳児

○秋の自然物や身近な材料を使って、1年生と一緒に工夫しながらおもちゃを作り、遊ぶことを楽しんだり満足感を味わったりする。

【中筋小学校 体育館での様子】A、Cグループ

「なんでも材料コーナー」には1年生・5歳児がそれぞれに集めてきた自然物や空き箱などが置いてあり、「試作品コーナー」には、作りたいもののイメージを広げられるよう、1年生が作ったおもちゃ等が展示してありました。

「遊びのコーナー」や「修理コーナー」があることで、作ったもので遊ぶことができ、遊んでいる途中で壊れてしまうと作り直す子どもの姿も見られました。

1年生と5歳児がペアで活動をする中で、難しいところはさりげなく手伝ったり、動かないように物を持ったり、声をかけたりしながら、協力合っておもちゃを作る様子や、自然物の特徴を生かしたおもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりする姿もたくさん見られました。



参加園/校			
永福保育園	池内幼稚園	朝来小学校	福井小学校
岡田保育園	倉梯幼稚園	余内小学校	三笠小学校
さくら保育園	舞鶴聖母幼稚園	池内小学校	明倫小学校
相愛保育園	三鶴幼稚園	大浦小学校	由良川小学校
平保育園	舞鶴幼稚園	岡田小学校	吉原小学校
タンポポハウス		倉梯小学校	与保呂小学校
なかすじ保育園		倉梯第二小学校	城南中学校
東山保育園		志楽小学校	(50音順)
ルンビニ保育園		新舞鶴小学校	
うみべのもり保育所		高野小学校	
中保育所		中筋小学校	
西乳児保育所		中舞鶴小学校	

Aグループ:中筋小学校1年1組 30名・池内幼稚園さくら組 35名
 Bグループ:中筋小学校1年2組 29名・なかすじ保育園きりん組 13名
 Cグループ:中筋小学校1年3組 29名・池内幼稚園うめ組 34名

【なかすじ保育園 遊戯室での様子】Bグループ

遊戯室のステージ上には、1年生・5歳児がそれぞれに集めてきた物、連携活動の中で一緒に集めた自然物や、製作に必要な材料が置いてありました。「製作コーナー」と「遊びのコーナー」が分けられており、作ったものですぐに遊べる環境が設定されていました。



作りたいものを考え、そのために必要なものを選び、考えたり、試したりして工夫しながら作る子どもや、他の子どもが作っているものに興味を持ち、刺激を受けて作る子どもの姿も見られました。それぞれに釣りを作っていても、川に見立てた場所に集まり、1年生と5歳児とが、一緒に魚釣り遊びを楽しむ様子が見られました。

活動の終わりに振り返りをし、子どもが作ったものについて工夫したところを聞いたり、活動の様子等を伝えることで、子ども自身の気づきにつながり、1年生と5歳児とが学びを共有することができました。



カンファレンス

【中筋小学校 担任より】

◎小学校3クラスと、幼稚園2クラス・保育園1クラスでペアをつくり、その中で1年生と5歳児がペアになって活動をしている。

◎今回4回目だが、なかすじ保育園は近くにあり、すぐに交流できるので回数も多く、池内幼稚園とは月1回(7月、9月、10月)、4回目はペアの子の名前もよく覚えていた。

◎2園との話し合いで、個々が自分で考えて活動し、達成感を味わうことを大切に、一緒に遊べたらよい。遊ぶことを重視しようと確認した。

◎就学時健診で「1年2組の先生や」と園児たちが学校を知っているという様子が嬉しく、今後も一緒に遊び、交流したいと感じた。

【5歳児担任より】

◎緊張して園児だけで関わるが多かったが、だんだん慣れて自分から話かけられるようになった。

◎事前に玩具を見せて頂いていたので、「これ作りたい」と楽しみにしていた。

木下先生 指導・講評



【全体について】

◎舞鶴の交流活動は互恵性を感じられ、教えてあげるという方向ではなく、一緒に遊ぶ、一緒に作る、一緒に学ぶということが指導計画の中からも感じられる。

◎毎日自然物に関わって遊んでいる保育所・幼稚園のよさをもっと出していきよ。

◎中筋保幼小の活動はこれからの大事だが、交流としてはよかった。

◎1年生にペアの子の名前を聞くと、3人の内2人は名前を知っていた。担任も名前が言えるようになれば素敵である。

◎入学の時に、先生もお兄ちゃんもお姉ちゃんも校長先生も知っているとのこと安心できる。

【時間について】

◎材料等を用意する時間に待っているのはもったいない。1年生が作っている中に幼児が入って来ればよい。導入はなくてもよかった。

◎チャイムが鳴らないと始めてはいけないということはない。チャイムが鳴らなくても自分で始める力を育てる授業改善が必要。

◎それぞれで自然の宝物を集めながら「使ってもらえるかな」「これでいいかな」と相手のことを意識していた。一緒に遊ぶということを思いながら集めていた。

◎作る時には手伝ってあげたい、教えてあげたい気持ちも感じられた。

◎1年生も名前を覚えた。

◎教室では「早く会いたい」と言っていたが、実際目の前にするとなかなか声をかけられず、初めは1年生がかたまっている様子で遊んでいた。だんだん打ち解け、自然とグループが一体となって遊ぶようになった。

◎自然とペアで遊んでおり、幼稚園児が1年生を誘う場面もあった。

◎就学時健診で「1年2組の先生や」と園児たちが学校を知っているという様子が嬉しく、今後も一緒に遊び、交流したいと感じた。

【5歳児担任より】

◎緊張して園児だけで関わるが多かったが、だんだん慣れて自分から話かけられるようになった。

◎事前に玩具を見せて頂いていたので、「これ作りたい」と楽しみにしていた。

どんな気づき、どんな発見、どんな探究をしたかということ、振り返りで伝える

～木下先生 カンファレンスより～

い。優しくしている子を振り返りでたくさん褒めることで周りの子も優しくするようになる。

◎「一緒に遊んで楽しかったね」で終わるともつたない。交流活動としては十分だが、生活科としては、どんな気づき、どんな発見、どんな探究をしたかということ、振り返りで伝えることが大事。

◎幼児は「何を作ったか」でよいが、1年生は「何を作ったか」ではなく、「作って何に気づいたか」が大事。

◎1年生が生活科として追求する姿を幼児が学んでいくことが大事。

◎導入で前回の気づきや、発見を知らせると活動がつながり探究になる。これが生活科ではとても重要。

◎その時期にしかできない遊びをどうするか。子ども達が秋にしかないもの(木の実、木の葉など)に触れ、日本の四季を肌で感じ、学んでいくことが大事。

◎活動は卒に捉われがちだが、自然体でよい。保育園・幼稚園の自然体のよさと、小学校の客観的に見るよさを取り入れる。

◎小学校の先生と保育園・幼稚園の先生が互いに学ぶことが大事。

現地研修 11月4日 鳴門教育大学付属幼稚園 幼児教育研究

現地研修として11月4日「鳴門教育大学付属幼稚園 幼児教育研究会」に27名(岡田保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所)が参加しました。

午前の公開保育では、自然を十分に取り入れた環境や子ども自らが考え試行錯誤し、主体的に遊び込む姿やそれを支える保育者の関わり等、多くの学びを得ることができました。



付属幼稚園では、環境を「遊具材」と呼び、子どもの主体的な遊び(学び)を誘い出す教材や環境等の研究を長年されており、その蓄積を実際に見て学ぶ機会となりました。

参加者からは、「自由に遊ぶ時間が十分あり、行きたい所ややりたいことをしている姿が見られた。」「子どもが遊びたいと思える環境を子

どもと一緒に作りあげていく保育者になりたい。」「たくさんの素材を組み合わせる遊ぶ姿から、環境の大切さを感じた。他のクラスの子どものことも把握されており、クラスの垣根を感じなかった。チームワークの良さを見習いたい。」等の感想がありました。



12月7日 うみべのもり保育所の公開保育を実施しました

うみべのもり保育所において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生に指導・助言をしていただきました。

乳児クラスでは、安心できる保育者のもと、ゆったりとした時間の中で、好きな遊びを思う存分楽しむ子ども達の姿がみられました。室内には手作りの玩具がたくさんあり、あたたかい雰囲気が感じられるとともに、年齢発達に合わせ、ねらいを持った環境構成がなされていました。

遊戯室では、一昨年の5歳児がきっかけとなり始まったコンサートごっこを引き継ぎ、3・4・5歳児が関わりながら、自分達で作上げた思い思いのコンサートを楽しむ姿が見られました。子どもの興味・関心から始まるお店屋さんではバラエティ豊かでリアリティがあり、小道具や食材の一つ一つにも、子ども達がアイデアを出し考えていることがうかがえました。

参加園

- 永福保育園
- 岡田保育園
- さくら保育園
- 相愛保育園
- タンポポハウス
- 東山保育園
- 八雲保育園
- 中保育所
- 西乳児保育所
- 池内幼稚園
- 倉梯幼稚園
- シオン幼稚園
- 中舞鶴幼稚園
- 舞鶴幼稚園
- 大浦小学校
- 倉梯小学校
- 志楽小学校
- (※50音順)



【公開保育テーマ】

子どもの主体性を育む保育を目指し、乳児期には、安心できる保育者との愛着・信頼関係を築くために応答的な関わりを大切にしている。幼児期はそれを基盤に、子どもが興味・関心を起点にして遊びを広げ、より深く考えたり、探究したりできるように環境を構成し関わっている。その中で得た様々な発見や気づきを保育者や友だちと共有し、次の遊びへとつなげている。

【公開保育の視点】

安心できる保育者のもとで好きな遊びを選び楽しんだり、年齢なりに自分の思いを行動、表情、言葉などで表現しようとしていたりする姿や、興味・関心を起点に遊びを広げ、考え工夫する中で様々な発見をしたり、友だちや保育者に伝え合ったりしている姿を見とってほしい。その中で、保育者は、子どもが主体的に遊び込める環境を構成し、関わっているかを見とってほしい。

公開保育

発達を踏まえ、これがあると遊びが発展し、学び・育ちへとつながるだろうという視点を持ち教材開発をすることが大切

～北野先生 コメントより～

【0歳児】

室内には、つまむ・ひっぱる・ねじるなどの手指を使った遊びが楽しめるような玩具や、戸板滑り台やマットの山など、体を使った遊びが十分楽しめる環境設定がなされていました。ゆったりとした雰囲気の中で、保育者とポットン落としやままごとを楽しみ、保育者との応答的なやりとりの中で安心して遊ぶ姿が見られました。

【北野先生 コメント】

◎保育者の顔を見たり、手を広げたりして子ども達がコミュニケーションを図ろうとしており、いい信頼関係が築けている。
◎色、形、音、動き、引っ張る、触る経験などイメージできるものがたくさんあるのがよい。

【2歳児】

室内には、ごっこ遊びが十分に楽しめるように、お家や手作りのお風呂、パン屋さんやお寿司屋さんなど、子ども達の生活や経験とつなげながら再現したり、見立て遊びが楽しめるような環境が整えられていました。お面をつけ、やりたいものになりきったり、保育者や友だちとやりとりしながらごっこ遊びを楽しむ姿が見られました。

【北野先生 コメント】

◎子どもの発達を踏まえた教材研究と環境構成がなされている。これがあると遊びが発展し、学び・育ちへとつながるだろうという視点を持ち教材開発をすることが大切だと考える。
◎保育者のなりきり具合が素晴らしく表情がよい。
◎子ども達がそれぞれに自己発揮する姿が見られた。

【1歳児】

体を使った遊びが楽しめるよう、環境が整えられた室内では、鉄棒にぶら下がったり、マットの山によじ登ったりと、思いきり体を動かして楽しむ姿が見られました。ままごとのコーナーには、手作りの冷蔵庫や洗濯機、人形のベッドなどの玩具が置かれ、子どもが模倣して遊ぶことを存分に楽しめるような環境構成がなされていました。

【北野先生 コメント】

◎パズル・ポットン落としなどのコーナーは、壁に向かって机が設置してありよかった。向かうところがあると集中できる。
◎子どもの表情が豊かでよい動きをしている。
◎手作り玩具は、色を変えたり、グラデーションを作ったり、細かく工夫して作っている。保育者が教材研究を楽しんでやっているのがわかる。

【3歳児】

製作遊びのコーナーには、様々な素材や自然物が置かれ、作りたいと思う子どもが作りたい時に製作のコーナーに来て、友だちに刺激を受けたり時には保育者にヒントをもらいながら、自分で考えたり工夫しながら、思い思いの作品作りを楽しんでいました。子どもの興味・関心から始まったお医者さんごっこのコーナーでは、ベッド、白衣、レントゲン写真、注射器などイメージを膨らませることができ、小道具や環境があり、友だちと関わりながら、再現遊びを楽しむ姿が見られました。

【北野先生 コメント】

◎製作遊びは、一つ一つ保育者の指示でやっていないことが大事。とても集中して取り組んでいる。
◎お医者さんごっこは患者さんのリアリティがあり、病人を演じている。お医者さんも一生懸命治療している。それらが発揮できる環境や空間、教材があることが大切ではないか。

(つづき)

待たされる指導ではなく、目的があり見通しを持って待つという経験の積み重ねが大事
～北野先生 コメントより～

【～コンサートごっこ～遊戯室】

一昨年の5歳児の一言がきっかけで始まったコンサートごっこは、その年ごとに形を変えながら引き継がれています。舞台の上では5歳児が踊りのフォーメーションを皆で相談する姿や、司会役の子どもが臨機応変に進行や解説をする姿など、自分達で考え工夫したり決めたりする様子が見られました。ステージ下では5歳児に憧れて踊る3歳児や、次は自分達も踊るんだという期待を持ちながら舞台の脇で見ている2歳児の姿もありました。



【～お店屋さんごっこ～遊戯室】

コンサート会場では、ラーメンやお味噌汁、クッキー、ジュースなど、子どもの興味・関心から始まった数々のお店が並んでいました。丁寧に作られた割り箸や、まるで本物のようなクッキーなどは、子ども達自身が考え工夫を凝らし、細部にまでこだわって作られたことがうかがえました。それらの小道具や食材があることによって、ごっこ遊びが豊かなものになっていると感じられました。



【北野先生 コメント】

◎全部自分達で決めていて、やらされている感がない。子ども同士のコミュニケーションが取れており、頻繁にコンサートごっこをやっているのがわかる。
◎音楽が流れないハプニングがあっても、自分達で考えて状況判断をし、臨機応変に対応している。
◎自分の順番がある、とわかって待っている子どもは、待たされるのではなく、「待ちたい」という見通しを持つ。順番に出てきて「座って見ましょう」というのでは、こういう待ち方はできないのではないか。目的があり、見通しを持って待つという経験の積み重ねが大事ではないか。

【北野先生 コメント】

◎紙粘土で作ってある食材は、かわいくてリアリティがある。子どもがよく考えて作っているのがわかる。
◎保育者が楽しんで、教材研究をしているのがわかる。
◎子どものイメージの共有には媒体がいる。その媒体により子ども同士をつなげようと、保育者が準備しているのがよくわかる。
◎リアリティのあるごっこ遊びが展開できている。
◎お味噌汁屋さんでは、「お椀の数が足りないからしっかりと洗わなければいけない。」と丁寧に洗う子どもがいた。そうやって考える力へとつながっていくと思う。

【環境】保育室や廊下などのいたるところに、自然物をふんだんに使った子ども達の作品が置かれていました。どれを見ても同じ物はなく、子ども達一人一人が、「こんな物を作りたい」という思いを持ち、考えたり工夫をしたりして作った物だということが感じられました。



【北野先生 コメント】

◎子どもと一緒に壁面や教材を作っていて、いろいろな所に子どもが育てた野菜やドキュメンテーションがある。人工的な物ではなく、子どもと一緒に空間を構成しており、保育者が作るうとして作っている。子どもの主体性は保育者の主体性でもあ

グループワーク

公開保育後に参加者同士で保育を語るグループワークを実施しています。①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿で印象に残ったことや、公開保育を見てどう感じたか、感想、質問など。②子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。それぞれのグループで話し合われたことを報告し、公開園の先生や北野先生への質問も出されました。

【グループワーク報告】

◎3・4歳児が5歳児に憧れてコンサートの様子を見たり、5歳児が3・4歳児にやり方などを教えている姿などから、縦のつながりを見ることができた。
◎保育者が子どもの思いを受けとめ、一人一人が満足し、満たされている遊びをしていた。
◎物的環境がしっかりしていて、子ども自身が「これしたい」という思いを持っていると感じた。
◎ごっこ遊び、お店屋さんなどがいくつもあり、クラスだけで流行っている状態ではなく、遊戯室でみんなが関わり、異年齢での遊びの場が充実していた。

関わってもらっていることが感じられた。
◎片付けの場面では色分けや数が書いてあり、子どもが見てわかるようにしてあり、自園でも参考にしたいと思った。



(北野先生回答)
◎主体性の尊重と設定保育について、どちらが良いか悪いかではなく、どちらが子どもの学び・育ち・集中・没頭・発見があるかを考えることが大切だと思う。
◎保育の形態の表面的なところではなく、子どもの主体的な学び・育ちが育まれているのかと言うことをしっかり考えることが大切ではないか。



◎自由遊びの場面で、学びや育ちがないとただの放任になる。
◎設定保育をたくさんしたら、豊かな経験が得られるのかと言えば、そうではない。与えられたものをこなしているだけでは豊かな経験にはならないのではないかと。

◎この年齢のこの時期にこの活動を取り入れた、この遊びをしたという経験があるからこそ、大きくなってからの主体的な遊びにつながっているのではと感じている。主体性を尊重することは大事だが、その時期に経験したいことを、設定の時間として経験する時間は必要ではないか？設定保育と主体性を尊重することとバランスよくやっていくためにはどうしたらよいか？



カンファレンス 溝邊 和成先生

保育者の考えていることと、子どもの姿とのずれはなかったかを振り返り、実践に役に立つようにしていくことで、カリキュラムが充実するのではないかと

保幼小接続カリキュラム策定検討会議会長の兵庫教育大学大学院教授 溝邊和成先生がご参加くださり、ご指導いただきました。

◎公開されている先生や、見ている側の先生が子どもの様子に入っているのがいいなと思った。だからこそカンファレンスが充実するのではないかと。 ◎子どもの様子を見る時に、自分が何を来たのかということや、感じたことを近くにいる先生とそこで話してみてもどうだろうか。

【ごっこ遊び】 ◎今回、いろいろなごっこ遊びがあった。ごっこ遊び(お店屋さん)の完成度が素晴らしく、しっかり遊び込めていた。



◎お店屋さんごっこのお店の品物がよかった。子どもの自慢のような動きがみれた。 ◎お客さんが来て十分な対応を

していた。保育者の見えないところの働きかけがそうさせているのではないかと考える。 ◎品物がすごく本物に近く、ごっこ遊びという言葉でつづってもよいのかと感じた。 ◎子どもが模倣してやっていることは、模倣しながら社会の機能を学んでいるのではないだろうか。だから道具や食材はリアリティのあるものがよい。 ◎病院ごっこは見ただけで子どもが本気で遊んでいる様子を感じられ、お医者さん役や患者役の子どもにも本物らしさが伺えた。

【外遊び】 ◎砂場で穴を掘っていたが、穴も作品と同じで、子どもの思考の表れではないかと考える。穴の大きさ、深さ、形、水が入っているかないかなど、そのものが思考の結果であり、作品(対象)そのものを含めて、子どもの姿を捉えようと感じた。



【環境】 ◎遊戯室のオープン性が良いと感じた。どこからでもいっつも遊びに入れる。いきなり入っても異年齢の子ども同士の遊びが成立する。 ◎片づけは、子ども自身が次の遊びの準備をするための環境作りをしているのではないだろうか。これを促す保育者の言葉があれば片づけがもっと進むかもしれない。



【カリキュラム】 ◎ドキュメンテーションの写真をみると、保育者は子どもばかりではなく、環境も含めたアングルで撮っている。写真を提示し、何が学びか、何を学んだのかをつづる記録を書いていることが大事ではないか。 ◎単に書いて終わりの指導案は終わりにしなければならぬと考える。指導案を振り返り記録として残す。 ◎保育者の考えていることと、子どもの姿とのずれはなかったかを振り返り、実践に役に立つようにしていくことで、カリキュラムが充実するのではないかと。

カンファレンス 北野 幸子先生

実践中に自分の保育を振り返り、修正したりする力が大事 ～北野先生指導・助言より～



◎先生達の表情がよく、楽しそうだった。 ◎子ども達はそれぞれに自己発揮する姿があった。支援の必要な子どもがたくさんいるけど、それを感じさせなかった。 ◎所長が環境構成も含め保育を理解している。子どもの姿の話や実践の中身のある話がある。これが同僚性につながる。

【環境】 ◎昨年の課題にあった、共有の場としてのホールの使い方や、目線の妨げにならないような棚の配置など、全てにおいて改善が見られた。 ◎とっさにそろえた教材ではなく、子どもの姿を見て一緒に考え、発達視点があって教材開発をしていることが感じられる。 ◎子どもの発見や疑問や活動したことが壁に貼ってあり、子どもと作る保育環境が素敵。 ◎集団保育の醍醐味は多様性に対する寛容性。こんな見方もある、こんなものも良いということを感じられる環境構成が大事ではないか。 ◎大切にしたいことは没頭・探求につながる環境や援助であると考えている。

【自由遊びの時間と一斉活動の時間のあり方について】 ◎主体性の尊重と設定保育について、どちらの中にどんな育ちがあり、どちらにどんな課題があるのかを考えると大切ではないか。 ◎設定保育のような環境よりも、2・3歳児にとって憧れや見本になる環境がある緩やかな異年齢活動のほうが、年下の子どもの学び・育ちがある意味期待されるのかもしれない。 ◎同年齢の時と異年齢の時に見られる姿は違う。話し合いの場面などでは、ある程度の目的や思考、コミュニケーション、話し合いの時の創意工夫や質など、同年齢でなければそのレベルが明らかに違う。 ◎異年齢の場合、緩やかな縦割りの時の遊びの場面では、年上の子どもに対する憧れや、年下の子どもに見せてあげよう、教えてあげようとする気持ちが、見られるのかもしれない。

【片づけ】 ◎充実・没頭・育ち・学びが多いことが、子どもの意欲、意識を高くする。何のために片づけるのかなど、次の見通しを持つことが大切。遊び込んだ子どもは、片づけにも主体的に取り組めるのではないかと。

【振り返り】 ◎保育者に話すのではなく、みんなと共有する意識が子ども達にあり、手を上げたり立ったりしなくても友だちの話が聞けていた。 ◎石鹸を泡立てたボールを皆に回していた。実物を見せていたのが良かった。 ◎「100点満点」と言ってしまった時の保育者の表情から、今の発言は良くなかったなど感じている様子が見えた。実践した後の振り返りも大事だが、実践中に自分の保育を振り返り、修正したりする力が大事だと考える。

【10の姿のドキュメンテーション】 ◎一人一人の保育者が、一つ一つの保育について構造化し、質の向上や教育課程の適正化を図っている。これを保護者へ発信することが大事であり、これこそがカリキュラムマネジメントではないか。



乳幼児教育の質の向上研修ニュース

発行日 平成30年3月23日 発行者 舞鶴市健康・子ども部

1月30日 保幼小連携研修を実施しました



今年度、連携活動を担当している保育所・幼稚園5歳児担任、小学校1年(2年)担任教諭、及び小学校教育研究会生活科部教諭を対象に保幼小連携研修会を実施しました。各連携協力園・校がグループに分かれて実践交流し、交流後、グループ発表を行いました。交流の視点は「①活動の中の子どもの学びや育ちを見取る」「②子どもの学びや育ちを支える保育者・教員の関わりについて考える」の2点でした。各園・校の連携活動をまとめた実践シートをもとに、保育者・教員が共に実践を振り返り、その効果や課題を共有することで、今後の連携活動に大いに役立つものとなりました。 鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生のご講演では、遊びの中の育ちや学びを見とり、記録すること、可視化することについて学びました。

日時：平成30年1月30日(火)14:15~16:30 場所：林業センター 3階 会議室 内容：実践交流(グループワーク):各協力園・校の実施報告書をもとに意見交流する講義「遊びと学びの可視化について」 講師：鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生

参加園/校

Table listing participating institutions: 永福保育園, 倉梯幼稚園, 志楽小学校, 岡田保育園, 志楽幼稚園, 新舞鶴小学校, さくら保育園, 橘幼稚園, 高野小学校, 相愛保育園, 中舞鶴幼稚園, 中筋小学校, タンポポハウス, 舞鶴聖母幼稚園, 中舞鶴小学校, なかすじ保育園, 三鶴幼稚園, 福井小学校, 東山保育園, 舞鶴幼稚園, 三笠小学校, やまもも保育園, 朝来小学校, 明倫小学校, ルンビニ保育園, 余内小学校, 由良川小学校, 八雲保育園, 池内小学校, 与保呂小学校, うみべのり保育園, 大浦小学校, (50音順), 中保育所, 岡田小学校, 朝来幼稚園, 倉梯小学校, 池内幼稚園, 倉梯第二小学校

実践交流(グループワーク)

グループワークでは、6グループに別れ、各協力園・校の年間を通した連携活動の実践に基づいた報告や意見交流を行いました。昨年度からの連携活動の変化や、子ども達だけでなく保育者・教員の連携について、次年度に向けたヒントとなる内容など活発に意見交換されました。

【Aグループ】 新舞鶴小学校 余内小学校 岡田小学校 やまもも保育園 舞鶴聖母幼稚園 東山保育園 岡田保育園

- 1年生が5歳児に何かをしてあげるのではなく、5歳児と1年生と一緒に準備したり、作ったりすることで、子どもの力が発揮できる。 -1年生から学ぶだけでなく、5歳児から学ぶことも多くある。お互いに学び合えることが大切。 -1年生だけが教えるのではなくてもよい。 -保育者・教員が一方的に活動を決めてしまうのではなく、幼・保・小それぞれに、子ども達が興味を持っていることをもとに交流した。 -全員で同じ活動をするのではなく、子ども達の興味や関心に基づき、1組と2組がそれぞれに違う活動を行った。 -1年を通して子どもの発達段階や特徴などを話し、保育者・教員が連携し事後の振り返りを行うことが大切。 -環境が違うと子どもの動きが違うため、園と学校とがお互いの環境を知ることが大切である。 -1年を通して同じペアで取り組むことで、お互いの思いが伝えやすくなった。 -単発ではなく、1年を通して継続的に連携活動を行うことが大切。

【Cグループ】 大浦小学校 与保呂小学校 中舞鶴小学校 さくら保育園 中舞鶴幼稚園 中保育所 -互恵性という点を大事に取り組みを考えた。 -園で事前の打ち合わせを行う中で、保育室の環境や園児の生活スタイルを知り、このような環境の中で連携活動を行うことが望ましいのではないかと、教員自身が気付くことができた。園の生活スタイルや環境を理解した上で、小学校での環境設定を行うことで、双方にとってスムーズに活動に取り組める要因になった。 -保育者・教員がこれをしよう、というのではなく、連携活動を進めていく

【Bグループ】 福井小学校 由良川小学校 志楽小学校 ルンビニ保育園 八雲保育園 志楽幼稚園 タンポポハウス

- 園と学校との距離があるが、継続的な活動にするため、手紙のやりとりでつながる工夫をした。手紙でのやりとりをすることで、文字への関心が高まった。 -園と学校が、環境や指導の仕方など、お互いを知ることが大切。 -5歳児、1年生のどちらか一方がお客さんになるのではなく、一緒に活動することで遊びが広がる。 -5歳児、1年生がお互いに教え合う姿が見られた。遊びから学ぶ、生活と結び付けることが大切。 -子ども自身が連携活動の中での気付きを「気づきシート」に記入し、感想交流を行うことで、遊びから学ぶことができる。 -管理職である園・校長が、充実した連携活動のため話し合う機会を設け、連携活動の計画を立てた。 -イベントの消化型でなく、年間を通した継続的な活動が大切である。 -1年生の担任だけでなく、学校全体と園全体で研修等を実施していきたい。 -連携活動を通し、文字や数量への関心が高まり、生活科から各教科へとつながった。

ちに、子ども達から取り組みたい活動がアイデアとして出てきた。 -お互いの距離が近く、1年生が学校の帰りに気軽に声をかけたり、年間計画にない活動も多く取り組めた。幼稚園の招待で1年生が「おまげやしき」に参加。その経験から小学校では、次の新たな活動へと発想が広がり、子ども達から「こんなことがしたい」と声があがり、子ども達で話し合いや計画を立て、活動を進めていくことにつながった。 -学びを支えるためには、お互いがどのような環境で、どのような日常を送っているのかを知り合うことが大切ではないか。 -子どもの姿を見て目的意識を持つことが大事。 -保育者・教員は、子どもを信じてまかせ、見守ることが大事。

グループワーク つづき

【Dグループ】

明倫小学校 高野小学校 倉梯第二小学校
舞鶴幼稚園 三鶴幼稚園 永福保育園

- ・アサガオの種まきから、1年を通し継続して活動したことで、ペアの仲が深まった。
- ・小学校に任せるばかりでなく、園と小学校がそれぞれの得意分野を發揮して、活動が計画できるようになってきた。
- ・行ける時に行ける人数でアサガオの様子を見に行き、計画にはなくても状況を把握したり、随時交流したりした。
- ・1年生になると一番下の学年になるので受身になりがちだが、連携活動を行うことで、自分の経験を活かして、相手に自分の知っていることを伝えようとする場があり自己發揮できる。
- ・連携活動を通し、自分の思いを伝える場(交流する)が大切だと感じた。
- ・子ども自身が遊びやゲームを考えることで、試行錯誤する経験ができた。
- ・来年度に続くことを見通して反省を行うことや、次年度への継続を考えることが大切である。

【Eグループ】

朝来小学校 倉梯小学校
相愛保育園 朝来幼稚園 倉梯幼稚園

- ・秋見つけを幼小それぞれで行い、5歳児・1年生と一緒に、どんな店にしようか考えた。
- ・グループごとに活動する中で、うまくいかない所を協力し試行錯誤していた。
- ・保育者・教員の声かけをどのようにするか、その都度話し合うことが大切ではないか。
- ・教師が喋りすぎないよう、子どもへのヒントや、声かけのタイミングの難しさがある。
- ・子ども同士で「こうしたらおもしろいのにな」ということに気付かせるには、教師の声のかけ方や見方に教師自身が気付くことが大切。
- ・保育者・教員が、日頃から気付いたことや思ったことなど、自分の思いを話す機会が大事。

【Fグループ】

三笠小学校 池内小学校 中筋小学校
橋幼稚園 うみべのもり保育所 池内幼稚園 なかすじ保育園

- ・保育者や教員が作る物や手順等を指示するのではなく、子ども達のアイデアに任せ、見守るスタイルをとった。
- ・5歳児・1年生がアイデアを出して活動し、見た目にとらわれることなく、内容を重視できた。
- ・様々なことに子ども達が自然に気付き、自分の意見ののびのびと言えた。

- ・5歳児・1年生が、考えを出しながら作りたい物を作る達成感や、満足感を感じられた。
- ・広い場所を分ける、グループごとに分ける、教室など、場所や空間作りの工夫が大切である。
- ・「10の姿」をふまえ活動を考えることが大切。
- ・保幼小で計画を立てることで、子ども達がスムーズに活動できた。
- ・5歳児が受身にならず、一緒に夢中になって活動することが大事。
- ・準備も活動の1つとして取り入れていくことが大切。

講義

連携活動には「楽しく」「仲良く」も必要だが、生活科は、「気付き」や「探究」にねらいを置くことが大事である。そこに生まれた会話、子どもの学びを言語化し残すことが大切である。 ~木下先生講義より~

【幼児期の学びと小学校以降の学び】

- ◎幼児期は環境を通して学び、小学校は教科書を通して学ぶ。
- ◎子どもが手にとって夢中になり、自分なりに考えたり工夫したりして、おもちゃでない物をおもちゃにして遊ぶことが大切であり、幼児期と同じく低学年も物を使いながら学ぶことが大切。

【連携について】

- ◎連携のキーワード
- (P)プリンシパル: 管理職が仲良くなる
- (P)パートナー: 先生同士が仲良くなる
- (C)カリキュラム: 計画
- (C)コミュニティー: 地域で子どもを育てる
- ◎計画にないことも、子どもからの発信を受け保・幼・小が一緒にやっていくことも大切。
- ◎連携カリキュラムの視点
 1. 今ある保・幼・小それぞれのカリキュラム
 2. 活動後の話し合い
 3. 互恵性のある活動
- ◎連携も接続も子どもの段差に目がいく。保育者・教師の教育観が変わらないと連携は進まない。
- ◎遊びやリズムが損なわれないようにすることが大切。

- ◎保育所・幼稚園は遊びに没頭できる。遊びに没頭できたら、学びにも没頭できる。学びに夢中になれる子どもを育てることが大切。
- ◎子どもの中に、自己肯定感や自己有能感が育まれたら、ますます段差がなくなっていく。
- ◎行ったことのない小学校に行く不安ではなく、知っている小学校なら安心であり、知っている人がいればもっと安心感が出る。
- ◎連携の目指すべき方向性、目的を持つことが大切。
- ◎スタートカリキュラムを作成するだけでなく、連携で学んだことを、小学校で教科の中に活かしていくことが大切である。
- ◎連携の本質は授業観が変わることである。
- ◎カリキュラム・マネジメントや、授業の何をどう変えるか認識していくことが大切。
- ◎実践がそのまま継続カリキュラムになっていくことが大切。これが「10の姿」である。
- ◎連携活動には「楽しく」「仲良く」も必要だが、生活科は、「気付き」や「探究」にねらいを置くことが大事である。そこに生まれた会話、子どもの学びを言語化し残すことが大切である。

【遊びと学びの可視化について】

- ◎一人一人の子どもの中に「10の姿」があるか。記録の中に「誰」「誰が」が入っていること

- ◎個人記録に個の学びが出てくるのが大切。
- ◎幼児教育のねらい・内容は、5領域である。その中で「10の姿」を捉え、育ちをしっかりと言語化することが大切。
- ◎まとめの『記録シート』は、お便りなど記録以外のものも載せているのがよい。
- ◎「こんなことをした」だけでなく、「こんな学びがあった」と言うことを記録していくことが大切。
- ◎園の中では個人の名前を入れるのも良い。個人個人の学びを記録して残す。
- ◎その場の様子が、具体的に書けている細やかさが必要であり、体の細やかな動きまで見ることが大切。
- ◎日常生活や遊びの中で個をしっかり見て、その子どもが何を学んでいるかを記録していくことが大切。

